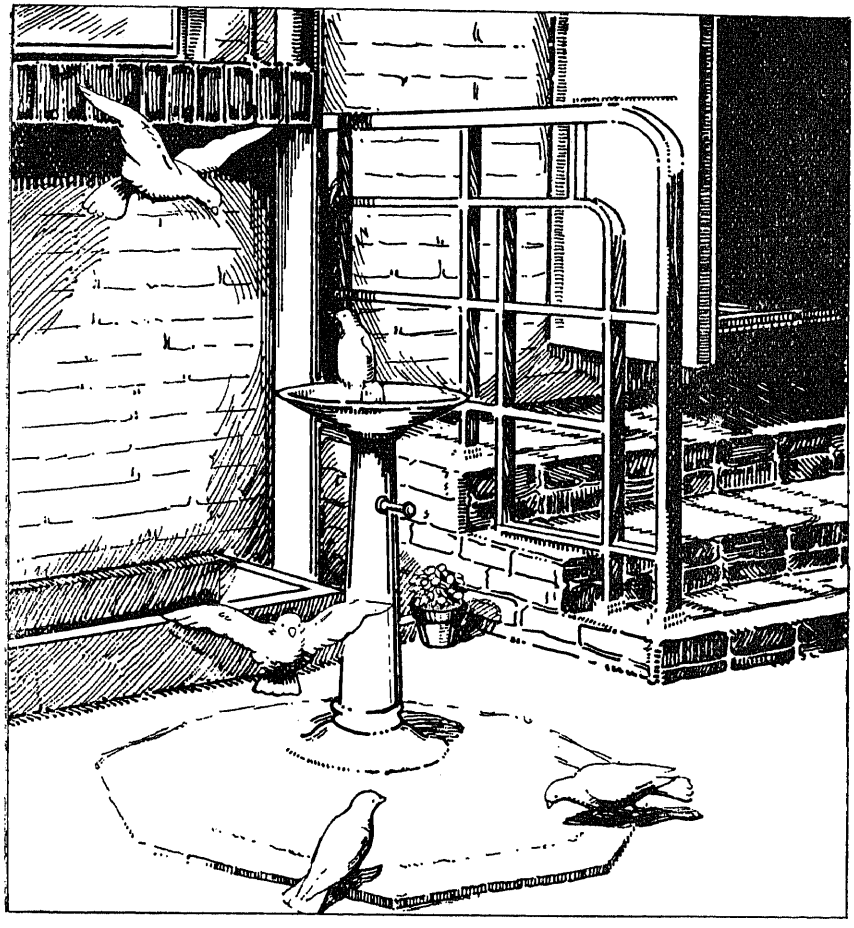
幼兒の教育

第三十五卷　十月號　第十號



東京女子高等師範學校內
日本幼稚園協會

文部省學校衛生官
體育研究所技師　醫學博士　吉田章信先生著

新刊
學校衛生評價
ターナー式

菊判洋綴　全一冊
定價金一圓二十錢送料廿二錢

學校に於ける衛生の施設は兒童の保健上最も留意せらるべき重大問題である。本書は學校衛生施設の評價を研究したもので、全般的に學校衛生の向上を計り、其一部の施設に於て得たる効果を他の一部に於て失はざる樣終始連絡を取り、更に在學中に得たる効果を生涯を通じて保有せしめ、以て眞に强健なる國民を養成すべきを力説す。而して學校長の自校の衛生施設に對する態度と各擔任の定めかた、學校に關する關係官廳に於ける施設、師範教育に於ける衛生評價に關する實習の必要等にも言及し、一、健康保持　二、疾病異常矯正と缺陷者の保健　三、健康增進、の三大綱目に別ち以て當局者の採るべき道を亘細に亘りて評說し斯界最高の指針とす。乞必讀

東京帝國大學
助教授　文學士　青木誠四郎著

劣等兒低能兒心理と其教育

菊判洋綴　全一冊
定價金二圓十錢送料八錢

等しく人類と生れ乍らも天賦程其の惡みに不公平の物はない。今假に兒童の天分を學的に分類して天才・最上智・上智・平均智・下智・愚鈍精神薄弱・低能白痴に分類すると極端な低能兒は全兒童の約二%を占め猶之れに下智、愚鈍等の綜ての偏異者を合すれば二十%に及ぶと言ふ。著者は只管に之等世に憐むべき人達の幸福を少しでも增す爲に、より完全な教育を慫慂する爲に本書を世に問ふたのである。

醫學博士　三田谷啓著

學童保健

菊判洋綴　全一冊
定價金三十錢送料四錢

本書は學童の健康增進に其一生を貴き天職として捧げつゝある篤學の博士が凡ての積蓄を傾倒して著せる業績である。從つて其內容に於ては苟しくも學童の保健に關する限り、之れを學的、統計的、施設等の各方面より殷なく詳說し、猶ほ其の實際問題、現狀に基立して懇切に指導してあるから學校教育家は勿論各家庭に於ても本書に依つて學童健康の萬全を期し得る良書である。

發行所　東京市牛込區天神町一七四　中文館書店　振替東京三八四二番　電話牛込三三二五番

秋期講演會

左記の通り講演會を開催します。多數御來聽を希望いたします。

十一月九日(土)午後一時半より

東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて

講演

開會の辭

——幼稚園創設六十年を迎へて——

本會主幹　倉橋惣三君

明治維新前後に於ける

我邦幼兒教育の狀況

東京文理科大學教授　文學博士　乙竹岩造君

昭和十年十月

日本幼稚園協會

新刊

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價金壹圓
送料金四錢

一、保育案の實際は幼稚園必須の資料

一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考

一、待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勸む

○七月二十日發行。

發行所　日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町三十五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

秋期講演會

左記の通り講演會を開催します。多數御來聽を希望いたします。

十一月九日(土)午後一時半より

東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて

講演

開會の辭

——幼稚園創設六十年を迎へて——

本會主幹　倉橋惣三君

明治維新前後に於ける

我邦幼兒教育の狀況

東京文理科大學教授　文學博士　乙竹岩造君

昭和十年十月

日本幼稚園協會

新刊

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價金壹圓
送料金四錢

一、保育案の實際は幼稚園必須の資料

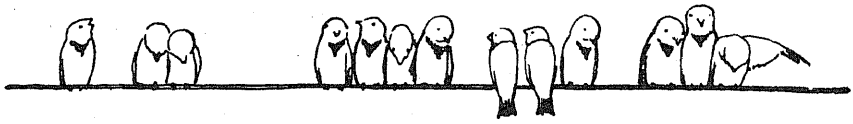
一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考

一、待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勸む

○七月二十日發行。

發行所　日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町三十五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內



第三十五卷　幼兒の教育　第十號

——（次　目）——

口絵

卷頭（子どもの目）……倉橋惣三…（一）

アンデルセンの性格と才能……蘆谷重常…（二）

フランスの幼兒保育について（下）……白根孝之…（八）

秋の幼年童謠の中より（下）……葛原　茵…（二五）

兒童心理學文獻抄（十一）……牛島義友…（三九）

童話おみやげお團子……武田雪夫…（四四）

育兒の神樣少子部すがる……仲川　明…（四六）

幼兒に聽かせるお話の實際（速記）……久留島武彦…（四八）

兒童教育講座

全拾六卷

兒童の教育は、個人的にも社會的にも最も重大な事柄である。而して兒童に關する知識を獲得する事は、人生の諸事情が知識を必要とするのと同樣である。兒童を教育する爲には先づ兒童を理解せねばならぬ。この度び斯界權威の翼賛を得て刊行する此の「兒童教育講座」は、兒童教育に携はる諸氏にとつて、其の日常の體驗を生かし、其の心構へを確固たらしめ、其の重任を補佐する事尠からぬ良書として好評を受けつつある。兒童教育への關心が今日程高まりつつあるは空前の事に屬する。教育家諸氏の其の地位上率先して此の事業への助力を惜しまれぬであらう事を確信し、御後援を期待する。〔內容見本進呈〕

第一回配本開始！

青年心理　青木誠四郎著

兒童と宗教教育　高崎能樹著

(1) 兒童心理　東北帝國大學助教授　大脇義一

(2) 兒童の智能　廣島文理大教授　久保良英

(3) 兒童の情操とその教育　京都帝大文學博士　野上俊夫

(4) 青年心理　東大助教授　青木誠四郎

(5) 兒童と環境　東京女專講師　山下俊郎

(6) 兒童と社會生活　法政大學　波多野完治

(7) 幼兒の教育　東京文理大教授　武政太郎

(8) 兒童と宗教教育　東京帝國大學心理學教室　中野佐三

(9) 新しき母の爲に　東京阿佐ケ谷幼稚園長　高崎能樹

(10) 學業成績　東京文理大教授　田中寛一

(11) 學校教育の實際と學科選擇の問題　倉敷勞働科學研究所　桐原葆見

(12) 職業指導と就職後の輔導　東京日日新聞社　千葉龜雄

(13) 母のための學習指導法　日本女子大學主事　河野清丸

(14) 治療教育學　名古屋醫學大學　杉田直樹

(15) 兒童の榮養　東京市榮養學研究所長　巻良知

(16) 兒童の生理と保健　東京醫學專門學校教授　廣瀬興

豫約規定

毎月二冊配本　八ヶ月完了
四六版　各冊三〇〇頁特製函入
申込金　不要
一ヶ月(二冊)金二圓八十錢
十六冊前金十四圓
申込締切　十月十五日

發行所　東京市麹町區九段二四　電話九段五二八六　振替東京二四八八番
目黒丁目四番
叢文閣

柄ばなし

附屬幼稚園

幼兒の教育

昭和十年十月

子どもの目

いつも眞正面から、眞直ぐに相手を見る目。いつもあからさまに自分をさらけ出して、心の隅まで隱すところのない目。

いつも一ぱいに見開いて、しつかりと物そのものを見詰める目。いつも新鮮さに冴えて興味の心に輝く目。

いつも柔いなつかし味に湛えてゐる目。人の心の明るさを受けて明るく、自らも亦容易に、相手の心の中に溶けてゆかうとする目。

それよりも尙、なんといふ淸さに澄んでゐることぞ。曇りもなく、濁りもなく、たとへば此頃の澄んだ空の淸さを、そのまゝ人界に落し來つたやうな目。

それが、子どもの目である。

（倉橋惣三）

アンデルセンの性格と才能

蘆谷重常

あのやうに美しい、あのやうに善良なお話をたくさん書いたアンデルセンは、どんなに幸福な、夢幻的な、お話の中の王子のやうな生活をしたであらうかと、誰しも思ふであらうが、事實は全くそれに相異して、どん底の世界に生れ、さまざまな苦勞をなめ、いかなる想像を以てしても、一個の不良少年、精神缺損者となるより外ないと思はれたほどの子供が、あのアンデルセンとなつたのである。アンデルセンの美しさや、善良さは、さうしてその童話のずばぬけた價値は、もはや一般に知られてゐることであるから、說く必要もないが、アンデルセンの生活、性格、才能等については、更に再檢討を要し、再認識を要すると思ふ。

事實は小說よりも奇なりといふが、アンデルセンの生涯は、小說以上の事實である。近代の文豪の中で、アンデルセンのやうな特異な傳記をもつものは少なからう。恐らく、童話家の中で、アンデルセンほど、みじめな環境に生れ、アンデルセンほど、目ざましい最期をとげたものはない。其の死ぬる時にあたつては、樞密顧問官の位にあり、その葬儀には皇帝、皇后、皇太子、皆葬列に從はれたといふ、人民の榮を極めた彼は、生れた時には、寢臺がなくて、棺桶の臺を改造した寢臺の上で生れたのである。

その血統からいふと、精神病の血統がある。彼の祖父は白痴であつた。アンデルセンは、祖父が、町の子供にからかは

れながら、歩いてゐるのを見て、幼な心に、自分の血管にその血が流れてゐると思つて、身ぶるひしたといつてゐる。彼の父は祖父と同じやうに發狂して、彼の十歳の時に、彼を遺して死んだのである。

彼の母は、極めて善良な、溫厚な、敬虔な人であつたが、また極めて無智で、世間知らずであつた。その家は極めて貧しかつたらしく、少さい時には物乞ひに歩かせられて、それをするのが厭で、終日橋の下に立つて泣いてゐたといふことを、アンデルセン自ら語つてゐる。ある說によれば、彼女は、アンデルセンの父に嫁ぐ前に、ある職工かなにかに欺されて、父なし兒を生んだことさへいはれてゐる。

かうした惡い遺傳の下に生れた彼は、十歳で父に別れ、繼父に育てられ、十五歳で單身鄕里を出で、首都に放浪し、しば〳〵宿無しになり、食に餓え、慘憺たる生活をした。十九歳でコーリン氏に助けられ、學校へ入つてからも、彼は常に周圍の嘲笑の對象であつた。「卽興詩人」の主人公アントニオや、みにくいあひるの子は彼自身の姿なのである。

かうした、みじめな少年から、どうしてあのやうな文豪が出來たか。そこがわれ〳〵の考察を要するところである。

彼の父は、無學で、小學校へも行かなかつたが（義務教育が充分行はれてゐなかつた頃である。少しは學校へ行つた事がある、の程度であつた。少）、文學好きで、ホルベルグの詩や、アラビアンナイト物語を、彼に讀んできかせることを唯一の樂しみとしてゐたといふことである。彼の文學的傾向は、この父からうけたものであらう、彼の祖先には、ドイツの俳優があつた。その俳優と驅け落をした娘の孫が、彼の祖母である。

しかし、アンデルセンの性格において、何よりも貴い、善良さと敬虔さは、彼の無學な、無智な、世間的に見れば、殆ど一顧にも値しない母から承けたものであることは、いさゝかも疑ひない。これらのことを考察するに、一人の偉人が生れるためには、無數の人格が存在し、外から見ては、全く想像もつかぬやうなところに、偉人の生れる契機があることが

わかるのである。それはまことに神わざであるといふの外はない。

あのやうにみじめな家に生れ、あのやうな苦難を味ひながら、アンデルセンが、その自傳に

「私の生涯は、愉快な、波瀾萬丈な、面白いおはなしである。」

といひ、又、

「私の生涯は、善良な神樣があつて、すべてのことを善きに導きたまふ證據である。」

といつてゐるのは、いかに傾聽すべきことであらう。アンデルセンは、その無智な母と、少しもかはらぬ篤信な人であつた。十五歳の時、家を出で、始めて海峽を渡つてゼーランドに上陸した時、藁塚の蔭に坐つて、神の加護を祈つたといふことが、自傳に書かれてあるが、それから後の彼の生活には、いつも祈りがつきまとうてゐる。この信仰が、至上者に對する信賴が、彼の生命の根柢をなし、そこから彼の童話が生れたのである、このことを知らずしては、彼の童話の價値を正當に認識しがたいであらう。

この篤信は又、彼の善良さと竝行してゐる。彼はしばしば人からお人善しといはれ、自分も亦そのことを書いてゐるが、その點も、母親と同樣であつた。母親の父無し子を生んだことなども、お人善しの娘が、欺されて、性的過誤を犯したにすぎないのである。アンデルセンが、いつも人に馬鹿にされ、嘲笑の材料とされたのも、あまり善良すぎたからであつた。しかし、このお人善しは、たゞのお人善しとして終るべくあまり偉大なお人よしであつたので、その眞價が認められると、反動的に、大に神に讃美されるやうになつたのである。

さて、筆者は、三十年來兒童文學に從事し、十五年間、日本童話協會の事業に從つてゐるが、その間に悟り得た最大の

ことは、童話家たるものゝ第一の資格は、性格的に善良であることであるといふにある。如何に創作や口演の技術が上手であつても、性格的に不善な人間は、童話家としての資格は甚だ乏しい。極めて平凡なことながら、これは眞理であると信ずる。この點に於て、アンデルセンのやうな作家は、少いといつてよい。彼の性格がいかに善良であるかは、その作品によく現れてゐる。たとへば「卽興詩人」であるが、あの長い小說の中に、無數の人物が登場し、波瀾重疊の活動が演ぜられるが、其の中には、一として性格的な惡人がないのである。いはゆる、敵役、惡玉といふものゝない小說は、殆んど無いのであるが、アンデルセンだけは例外である。これは、彼の性格の善良さが、さういふ惡人を描寫することが出來なかつたのみでなく、さういふ惡人を考へ出すことが出來なかつたのである。このことは、彼の童話に於てもさうであつて、大抵の童話は、善行を引き立たせる爲に、惡玉を目立たせるのであるが、彼の童話には殆んどそれが無い。全然惡玉を缺如した作も多いが、たとへあつても、その惡の描寫が極めてあつさりとしてをる。彼の童話の敎育的價値は、この點に於て特に重視せられるのである。

アンデルセンの子供らしさも亦、此の善良に伴うてゐる。彼は實に、終生を通じて子供であつた。父親の着古しを仕立て直した、妙な格好の上衣を着て、耳まで入る帽子を被つて、彼が首都に現れた時は、漫畫そのまゝの格好であつたが、彼は平氣な顏で、大藝術家になるつもりで、名士の許を訪問した。彼がしば〳〵嘲笑の材料とされたのは、かうした馬鹿げた擧動や、言行にもよるので、いはゞ彼自ら招いたものといつてもよいのだ。それは、彼自身に取つては、當然のことであつた。自分が上手だと思ふから上手だといひ、傑作であると思ふから傑作であるといふのは子供である彼にとつては、當然のことだ。この子供も、自ら東鄕大將や、乃木大將となつて怪しまない如く、アンデルセンは、國語も十分に使

へないのに、大詩人の卵を以て任じてゐた。さうした子供らしい、馬鹿らしさが、彼の周圍に嘲笑の渦を捲き起させたのである。しかし、常識的に見ては、變な奴だとしか思はれぬ者が、子供には神樣のやうに慕はれる場合が甚だ多いと同じく、此の風變りな少年は、どこへ行つても子供に取りまかれた。そこに彼の童話が生れたのである。

英國の、ある新聞記者が、アンデルセンを訪問したことがあつた。もう六十過ぎてのことであるが、アンデルセンは、どうかしてその手に刺をさしたのである。そして、痛い痛いと、子供のやうに泣きわめいて、床の上をころげまはつてゐるので、實に滑稽をきはめた。また、ある人の話に、アンデルセンは、位は樞密顧問官に上り、しば〳〵歐羅巴の王公の客となり、其名が世界的に知られてゐるやうになつても、往來で子供に

「ソラ、偉大なるハンス、アンデルセンが通る」

と拍手されると、とても喜んで、そのことを吹聽しまはつたといふことである。いかにも童心滿々な人であつた。

以上は、アンデルセンの性格についての考察であるが、つぎには、アンデルセンの才能について考へよう。

童話作家はたくさんあるが、よい童話作家はすくないものである。童話といふものは、本質的に詩であるが、形の上に於ては物語である。それであるから、童話作家として必要な能力は、想像力と構成力とである。如何に想像力が豐かで、詩的空想が奔放であつても、構成力を缺いてをる人の作は、童話にならずして童謠になつてしまふ。又、如何に構成力には長じてゐても、詩的天分のない人の作は、淡々として蠟を嚙むが如く、何の味もないのである。然るに、此の想像力と、構成力とを十分に兼ね備へてゐる人といふものは、さう多くあるものではない。そこで、よい童話作家がなく、童話創作難といふことが唱へられるのである。

此點に於て、アンデルセンは、實に惠まれたる人である。彼の想像は、實に、天馬空を行くが如く、雄大、莊麗を極めてゐる。地上を這つてゐる蟲のやうな、多くの作家の中で、彼はまさに蒼空に翱翔する巨鳥である。しかも單に、そのやうな想像力を備へたるに止まらずして、また實にすぐれたる構成力をもつてをつた。

又、「卽興詩人」を引き合ひに出すが、あの大作の中に、始めから終りまで多數の人物が登場し、その中にいろ〳〵な插話を插み、變化端睨すべからざるものあるにも拘らず、讀み終つてこれを檢するに、首尾相應し、因果瞭然として、少しの無理がなく、上手の打つた圍碁が一石一石無駄のないやうに、一字一句も動かすことの出來ぬものがあつて、その構成力の偉大なのには、つく〴〵驚嘆されるのである。かうしたすぐれた構成力を以て、童話の創作に臨んだのであるから、その作品の非凡なのは當然のことである。アンデルセンは偉いと一口にいふが、たゞえらい〳〵でなく、何所がえらいかを檢討して、自分を檢する鏡とすることが必要である。

以上述べたやうに、アンデルセンの童話のすぐれた點は、形の上からいへば、その構成が完全であり、その想像が豐富であることであつて、精神の上からいへば、その善良さと、敬虔さとである。これらのものが基礎をなして、彼の童話に特有な詩美をあたへるのである。單に話し易いといふ點では、グリンムなどの口碑童話の方が話し易いのは當然であるが、アンデルセンには、グリンムなどに求めて得られざるものゝ多くがある。それは露骨な教訓ではなくて、話そのものから放散される香氣であるが、これをよく味ひ、よく傳へることを試みるのは、有益な努力であらう。子供のためにも、又自分たちのためにも。岸邊福雄氏は、童話の研究を志望して來る人に對して、先づ第一に

「アンデルセンを讀んだか、讀まないならば、三十遍、讀み返しておいでなさい。」

といはれるさうであるが、流石だと思ふ。

フランスに於ける幼兒保育について（下）

白根孝之

次にパリーの女子師範附屬幼稚園に於ける時間表を擧げてみよう。猶ほ附言しておくが、フランスは我國と共に世界で最も統一のある寧ろ劃一にすぎるとも云ふべき教育制度を有する國であつて、文部大臣は時計を取出して見て、その時刻全國の各種學校で何を教へてゐるかを知ることが出來るとすら云はれてゐる。この點は當局が大綱を示すのみで、實際の教案は土地々々の特別の事情と要求とによつて各學校長に自由に制定する權利を與へたイギリス、各州によつて學制に著しい相違のあるアメリカ等と極めて明瞭な對照をなしてゐる。從つて次に示すパリ・バテエノッレの女子師範學校附屬幼稚園第四級の時間割は、大體に於て全フランスの標準を示すものと見ることが出來る。

	月	火	水	金	土
1 八・四五—九・一五	全園朝禮・唱歌				
2 九・一五—一〇・一五	讀方・語物・書方				
3 一〇・一五—一一	讀本朗讀・取書				
4 一一—一一・三〇	博物	實物示教	地理	修身	圖畫
	畫			食	
5 一・三〇—二	算術	算術	算術	算術	算術
6 二—二・三〇	圖畫	圖畫	圖畫	圖畫	圖畫
	休			憩	
7 二・四五—三	動物植物	英語	團體作業	英語	動物植物
8 三—三・三〇	手工	手工	手工	手工	手工
9 三・三〇—三・四五	お話	お話	お話	お話	お話

幼稚園を了へて小學校第一學年に進む頃には、一通りの讀み書き、加法減法乘法の簡單なものが出來るやうになるさうである。

第三年級に於ける算術の一例を擧げれば「或る人が毎月家賃に五五フラン、會費に九二フラン、衣服に三一フランを支拂ひ、更に三一フランの貯金をするとすれば、この人は一月に幾らお金を儲けるのか」といふのがある。

英語はやつてゐない幼稚園が多いが、以上に擧げたパリーの女子師範附屬幼稚園では第四級に於て施してゐる。勿論簡單な初步的のもので、教室や遊戲場內の物品の名稱、身體の機關の名前、それに「私にパンを下さい」、「石板をお出しなさい」等といつた會話である。

次に「幼稚園保姆の一日」といふ書物の一節を引用しよう。これによつて見ればその行つてゐる事柄がかなりはつきりとわかるであらう。

「夏は八時、冬は九時、園の門の開かれる頃に、二歲から六歲までの子供が、家の誰か——學校に行く途次の兄姉やお母さんが一番多いが——に連れられてやつて來る。

保姆はそれ等の人々の手から幼兒を受取る。子供達は辨當を入れたバスケットを自分で定められた場所に置く。そして講堂の腰掛に坐つて九時まで園長のお話を聞いて、一緒に唱歌を歌つたり、體操をする。

幼稚園は男女兒の共學である。教室でも運動場でも一緒である。(因にフランスでは小學校から原則として男女別である。地方に行くと男女兒混合の小學校があるが、都會地では男兒小學校と女兒小學校とは別々である。)

九時になると受持の保姆は子供達を洗面所に連れて行つて、手や顏やハンカチーフや衣服を檢査し、汚い子供に注意を與へ、いつもきれいな子供を褒めてやる。

歌ひ乍らめい〳〵の教室に入り、全部揃つてからその日の作業が始まる。

時間割に從つて、二十分が教科書の朗讀、五分間唱歌、二十分間書方、十分間話方。

讀方では動かすやうに出來た文字を使用するが、又は保姆が黑板に一々アルファベットの名を讀み上げ乍ら書いてゆく。

十時十五分になると三十分の休憩を與へる、子供達は自由に遊び戯れるが　場所は制限され、保姆は目を離さず監督せねばならない。

教室に歸ると時間表に從つて、博物、地理、實物示教等が行はれる。

十一時半になると保姆は子供達を食堂へつれて行く。

晝食を攝りに家に歸る子供はその後から續く。保姆の一人は玄關まで見送つてそこに待つてゐる兩親に手渡す。

食堂では保姆と助手とがいろ〳〵世話をしてやり、給食兒にはスープやパンを與へる。食事中は淸潔に注意するやう保姆からお話をしてやり、必要があれば食事を中止さして注意を與へる。十二時十五分に辨當を終る。

食後は自由に遊ばせる。

一時になれば洗面所に連れて行き、終れば唱歌を歌ひ乍ら教室に入り、讀方や算術を敎へる。二時半までいろ〳〵の作業がつゞき、あと三十分休憩さす。一週二度、その後でクラスの團體體操を行ふ。手足の簡單な運動、行進、競技等である。休憩等は手工又はデザインの時間である。折紙、切紙、貼紙等のなるべく子供達の喜びさうなものを作らせる。

四時になれば歸る子供はお迎へに迎へられて歸宅する。その他の子供は夏は七時、冬は七時まで園に留まることが出來る。」

(3)管　理

次に幼稚園の管理に關して一九二二年修正された規程を示さう。

第一條。幼稚園に入園を志願する兒童の父兄は、醫師の診斷書、其の他兒童の出生屆、戸籍抄本を副へて園長まで差出

すべし。六歳以上の年齢の兒童は幼稚園府縣視學(女)、又は小學視學の許可證なくしては入園を許可せられ得ず。この決定に對する再訴願は中等視學の下に提出し得。

第二條。登校、下校の時間は各幼稚園に對し市の申請に基き幼稚園視學、又は小學視學に依り定めらるゝものとす。是等は市長の申請に基き幼稚園視學又は小學視學に依り修正爲し得るものとす。この決定の再訴願は中等視學に提出し得。

第三條。登校したる各兒童に對し保姆は自らその健康、清潔狀態を檢査し、その不十分なるを認めたる場合には洗面所に行かしめむ。故に各兒童にハンカチを持たしむる事を望むものなり。洗面用の手拭は各自個人別たるべし。

第四條。兒童は休憩時間中歸宅せしめず保姆の監督の下に園內に止まるべし。食事は完全なる清潔狀態を以て、バスケット又は袋に入れて持參すべし。すべての醱酵飲料及びコーヒー、アルコール飲料を禁じ、幼稚園は兒童に飲料として煮沸湯又は百二十度に熱したる水、又は衞生的に煎じたる飲料を給すべし。

第五條。教室の出入に當り兒童は自由にし得ず。列を爲し、常に一人の保姆の監督の下に引率さるべし。食事及び休憩時間の後には兒童を洗面所に行かしむべし。

第六條。規定に依り定められたる時間に兒童を迎へに來ざる父兄は不注意たるも故意の場合に於ても一應の注意を受くべし。兒童は直接家族の手に引き渡さるべし。退園は園長の申請に依り、府縣視學又は小學視學によりてのみ發表され得。

第七條。幼稚園は絕えず清潔、保健の狀態を保つべく掃除は每日之を行ふべし。但し乾燥掃除は之を禁ず。濕りたる鉋屑及び雜巾の類を用ひて爲すべし。床に蠟引せざる場合は月一回の床洗ひを爲すべし。每年一度教室內は漂白又は灰洗なすべし。空氣は常に新鮮たるべし。休憩時間中は窓を開放すべし。

第八條。病氣狀態にある兒童は登校を禁ずその日の中に病氣となりたるものは父兄の下に送り屆くべく、又危急の場合は校醫の下に送り屆くべし。過勞せし兒童又は加減惡しき兒童はベットにて靜養せしむ。若し傳染病と疑はしき徵候あるときは隔離室に入らしむ。

第九條。兒童の再々の缺席の場合、園長はその理由をたゞすべし。園長又は職員(保姆、看護婦)はそれ等の兒童の個別訪問を爲すべし。若し保護者團體あるときは園長はその會長に對し兒童の病氣を報告すべし。是等の會員により個別訪問を爲さるべきなればなり。

第十條。兒童をして直接家畜に接觸せしむべからず。幼稚園内には危險なき動物を完全なる清潔條件の下に飼養すべし。

第十一條。兒童に過重の記憶力を浪費せしむべからず。

第十二條。兒童に與ふる賞は次のものに限らる、——よき點、繪畫又は玩具(完全に個人的たるべし)。

第十三條。兒童に對し許されたる罰は次のものに限らる——短時間の課業、遊戯の禁止、及び賞品の取戻し。

第十四條。幼稚園の監督は園長に委任せらる。中等視學又は知事の許可なくして園を目的の異りたる業務に用ひらるゝ事を一切禁ず。

第十五條。幼稚園に於ける全職員は園長の直接權限内にあるべし。開園中は如何なる事情ありとも職員は專門以外の勤務を爲すを得ず。

第十六條。公立幼稚園々長は次のものを保管すべし。

一、兒童の姓名・生年月日・診斷書・入園年月日・修了年月日・父兄又は保護者の姓名・住所・職業を記載したる帳簿。この帳簿は其他備考欄を設くべし。尙、探し易き樣ABC順の索引を附し置くべし。

二、醫師の檢査表一册

三、衞生票

四、出席簿

五、校具、學用品の目錄（出納表を附す）

六、着物置場に供されたる支給衣服の出納簿

是等の帳簿は視學に檢査を受けその檢印を受くべし。

第十七條。園長、副園長に對し父兄の贈物を禁ず。

第十八條。幼稚園に於ては學科に關係なき書籍、假綴、本綴、手記たるを問はず之を採用するを許さず。

第十九條。寄附義捐等の名目によつて濫に金品の贈與を受くべからず。

（4）建築及び設備

最後に幼稚園の建築並びに施設に關して發せられた一九二七年一月十五日の規程を示さう。

一、一般條件

第一條。幼稚園敷地は出入容易且つ安全にして、あらゆる喧噪、不健康なる建物より遠ざかり、通風よく、百メートル以上墓地より離れたる地に置かるべし。交通頻繁なる道路より出來得る限り遠隔の地に位置すべきなり。土地が濕地の場合は泄水設備を施し、衞生的にすべし。土地の表面面積は生徒一人當り約十米平方の割にて見積らるべし。但し五百米平方以下のものは之を許可せず。校舍及び附屬地は塀を廻らすべし。而してその塀は出來得る限り透しを入れるべし。

第二條。建物の配置は保健條件を念頭に置き、土地の氣候に從ひ方位土地の形狀、臨接建物との距離の點より定めらるべし。

第三條。幼稚園が他の學校舍の一部なるときは、頻繁なる休憩時間の噪音が他の學校の教師、生徒の障碍とならざるべく遊戯場の位置を定むべし。

第四條。關係なき事務は幼稚園内に於て絶對に行はざるべし。

第五條。兒童常用の場所は大なる障碍なき限り一階たるべし。この一階の高さは地面より六十糎とす。

第六條。石壁の場合は四十五糎、煉瓦の場合は三十五糎とす。屋根は瓦葺き、石板葺きを使用の事。但し金屬性のものを除く。

第七條。園内に飲料水の供給設備を設くべし。

二、幼稚園の設備

第八條。幼稚園は次のものを設くべし。

一、父兄の控室に充つる廣大なる玄關

二、園長室

三、一個又は數個の着衣置場

四、遊戯室

五、一個又は數個の教室

六、休養室

七、清潔室

八、食堂及び賄場

九、便　所

十、休憩時間遊戯場

十一、職員宿舍

尙望むらくはすべての園特に多級を有する園に於ては助手室竝びに醫務室を設けらるべし。

教　室

第九條。教室は遊戯室に直接するか、又は六十糎以上の幅を有する廊下又は通路によつて之に通ず。教室、廊下共に直接外部より通風採光すべし。

第十條。教室は長方形、最小限度兒童一人當り八十糎平方以上なるべし。——天井の高さは他の校內の室と同樣四米、幅は最大限度八米までとす。一教室の坐席は五十を最大限度とす。

第十一條。天井は平滑にして蛇腹なく、壁と壁、又は壁の間の板と板、天井等の突き合せの角は半徑十糎の角丸たるべし。

第十二條。教室の床は不滲透性、非腐敗性の龜裂を生ぜざる物質を以て覆はれ、コンクリートの場合は表面を厚きリノリウムにて覆ひおくべし。堅木の床板は成るべく瀝青をもつて固着せしむべし。樅材、松材を使用する地方に於ては、幅狹き板となし煮沸亞麻油を塗布すべし。地下室上に建てられざる室の床は、プラットフォーム又は不滲透性の物質の層の

上に建てらるべし。窓際に床と水平に小さき開閉の排水口を取り付くるべし。

第十三條。すべての内壁の下部は洗滌に耐ふる塗料を塗布すべし、掛圖、黒板なき場所の床上一米より一米二十糎以上の壁面に、出來得る限り陶器(タイル)又は之に類似せる物質の明色のもの又はクリ形なき板張等を用ふ。陶器製の窓の下の壁の上部は窓枠に掛くる鉤を具へし木製の部分で仕切らるべし。

第十四條。壁に沿ひ丈低き本棚及び各自の戸棚を設け且つ角々には突出せる、又は斷面となる押入れを作るべし。壁の一部は黒板にて覆はる。一は保姆用にて他は生徒用なり。尚生徒用のものは一米以上を超えざるべし。

第十五條。戸は一枚扉のものを選びて幅九十糎とす。戸口は教室より直接外部に開くものは之を禁ず。

第十六條。天井よりの採光を主要採光に充つるを禁ず。窓は長方形とし、窓口は出來得る限り廣く、且つ多數とすべし。窓の上框は天井の直接下に窓口を最大限度に開くべし、窓敷は床上五十糎以上上部とす、兒童をして外界の眺望をより廣く得さしむる便あり。但し安全設備は萬全を期すべし。あらゆる窓、二重窓及び欄干は開放すべし。

第十七條。人工照明は出來得る限り電燈とす。その裝置は常に幼兒の視力を疲勞せしめざる樣施すべし。故に天井に反射せる散光手段を採用するをよしとす。

第十八條。教室及び全校内の暖房裝置は定壓蒸氣暖房器により安全を期すべし。但し、暖房集散中心なきときは、各室に蒸發表面を有する水槽を備へたるストーヴを設置すべし。是等ストーヴは二重の金屬性物質又は土燒の覆ひをかくべし。鐵の柵にてかこみ、竈なきものとす。融解性物質のストーヴは之を禁ず。出來得る限り完全なる裝置の採用に特に意を用ふべし。

一、全校通風採光共に宜しき事。

二、教室、遊戯室に於て幼兒の足の保溫十分なる事。

三、着物置場――濕めりし衣服を乾し得る事。

四、洗面所――入浴、灌水浴の溫湯を供給し得ること。

第十九條。餘儀なく教室を二階に設くる時は、便所及び他と交渉なき洗面所を設くべし。階段は直線にて廻段なきものたるべし(間口最小一米三十五糎、踏面二十八糎乃至三十糎、蹴上最高十六糎、面取りたるべし)。手摺子の間隔は十三糎たるべし。手摺(高さ一米三十糎)の上には一米以上間隔を置きたる釦を裝置すべし。手摺は兒童の手の高さの位置たるべし。

特に市内に在りて面積に制限を受けたる場合は園を廻らし、安全を計りたる出入し易き屋上遊戯場を設くべし。

第二十條。教室内の校具は次の如し。

一、小腰掛、目透板又は穴を穿けた板より成る椅子の坐板。大きさ四種、床上二十一糎、二十三糎、二十五糎、三十糎。腰掛の背の高さにも四種あり(椅子の坐より二十五糎、三十一糎、三十七糎、四十四糎、幅、最小限度三十糎とす)。

二、机、異りたる三種あり。

A、圓欒卓子、長方形、角丸、大さに四種あり、高さ四十二糎、四十四糎、四十五糎、五十二糎、長さ四十五糎(一人當り)、幅四十糎――餘り重からず十分に堅牢なるもの。一米八十糎より二米の兒童四五人を以つて持ち運び可能なる程度。

B、幼兒各自の机、高さ四種あり、四十二糎、四十四糎、四十六糎、五十二糎。

C、楕圓形卓子、長徑二米、短徑五十八糎、明色塗料塗又はワニス塗。完全水平なるもの。固定的ならざるもの。

三、事務用抽出附テーブル及び保姆用腰掛。

休養室

第二十一條。休養室は教室に他の室を介して通ずべき事、硝子張の仕切を以て他の室と隔つる事(監視容易なるが爲なり)此の室は東向をよしとす。四季溫度の平均を保ち且つ午後の晝寢の枕元より蠅の侵入を避け得ればなり。室内に一ケ所硝子張の隔離個所を設け、疑しき兆候を認めたる場合に充つ。

第二十二條。休養室は左の休養具を備ふべし。

子供用組立晝寢寢臺、X型の脚の上にゴム引の布を布きたるもの。折疊寢臺。安樂椅子。椅子の高さは床上五糎以下なる事。その數は下級兒童十人に對して一個以上たる事。——絲網又は粗い節用布の籠は蠅除けとなるべし。

着物置場

第二十三條。教室内には着物置場を絶對に設けざる事。

記名全員五十名以上の時は特に一室を設くるを可とす。能ふれば一級一室宛とすべし。餘儀なき場合は廊下に十分な廣さと十分な通風あらばその場所に設くる事を得。

第二十四條。外套掛けは固定せられたる兒童に手頃なるものを用ふるを可とす。各鉤の距離は三十糎以上たるべき事、若し壁に取り付けたる場合は出來得る限り目透板の仕切りにて各兒童の衣服が互に接觸せざる樣なすべし。

各仕切の間に帽子入れを作り、一米以上に目透又は金網の棚を設くべし。靴箱は上靴を學校に保存すべく設置すべし。傘置場も同樣設くべし。

醫務室

第二十五條。出入便利なる廣範圍に亙る照明裝置を有する通風採光暖房共に宜しき一室を校醫の診察所に充つべし。

內面壁、床、器具、すべて洗滌可能のものなる事。設備としては——鍵付の戸棚一個藥品及び健康票の戸棚、身長計、醫師用體重秤、其の他測定器具。机一個、椅子若干。

清潔設備

第二十六條。先づ洗面所は衞生室をあらゆる室より最も出入便利なる場所に定むべし。水栓の數は六人より十人に對し一個以上の割たるべし。

第二十七條。採用すべき裝置は維持し易きものたるべし。但し出來得る限り外側に導管を有するもの。但し之は餘り精巧なる裝置に非ず。幼兒童には活栓を避くべし。引水は保姆の扱ふべき把手一個により全部處理さるべし。受容器の緣の高さは五十糎以下とし水栓は僅か高く約十糎の高さより灌ぐべし。

第二十八條。溫湯、冷水共に隨時供給せらるゝものを最も可とす。

第二十九條。干物掛けは移動性の銅、ニッケル、眞鍮、又は木製の鉤を具へたる各距離を二十糎、一人一個宛とす。

第三十條。床、壁は不滲透性物質なる事、角丸たるコンクリート張りをよしとす。

第三十一條。室內には洗面所を備へ暖房と通風採光を特に留意すべし。室內は直接外部よりの採光をよしとす。

第三十二條。其他入浴室にも衞生設備は適當に施さるべし。但し水栓の數は非常に頻繁なる兒童の入浴に足るべき且つ高さは兒童に比例する事。

第三十三條。脫衣場、飛沫のかゝらざる樣且つ衣服が他の衣服に接觸せざる樣設くべし。

踏所及び食堂

第三十四條。賄所は直接外部よりの日光、空氣を採り入るべき事。

床は瓦敷、コンクリート敷、石敷たるべし。

第三十五條。園内に特別加熱裝置を具へざるときは炊事用竈及びガス管は衛生設備用の溫湯配給に重要なるものなるべし。

第三十六條。賄所に隣接して暖房されたる食堂を設くべし。通風採光共に宜しく器具は氣候よき時、戸外食事を爲し得る樣持ち運びに便利なるものなるべし。

第四十三條。遊戯場の設備

一、數個の目透板のベンチ。腰掛の高さは約二十糎、眞直なる凭れを有すべし。

二、個定せる大槽又は小槽若干。常に清潔にて濕氣を帶びたる砂を充したるものを樹木の傍に置くべし。

第四十四條。遊戯場の一隅に天候惡しき時戸外にての遊戯可能の爲屋根付の場所を設くべし。若し柱にて屋根を支へるときはその角は丸味を帶ぶる樣にすべし。

雨天遊戯場は各教室より渡廊下にて出入便利なる事。

第四十五條。木製ベンチに遊戯用器を藏ひ置く金網を張りたる棚を取り付くるべし。棚の高さ一米二十糎以下たるべし。

第四十六條。雨天遊戯場内には飲料水の給水場を設くべし。

第四十七條。バスケット入として壁に沿ひ兒童の平均身長を基準としたる一米内外に食事用前掛を掛け得る裝置を施したる目透板又は金網の棚を吊るべし。

第四十八條。食堂内には二種の戸棚を設くべし。一は食器棚にて他はすべての補給品（着更への衣服、下着等）に充つ。匙、肉叉は小型（側附用）とし、食器は一切瀬戸引きたること。食物の煮炊に用ふる器具類は同樣瀬戸引たるべし。

屋内外遊戯

第四十九條。遊戯場の面積は一人當り約三米平方、但し全體にて百五十米平方以上たる事。

第五十條。地面は砂敷たるべし。石敷、コンクリートは通路及び歩道以外に用ふべからず。通路及び歩道は隆起せざるものとす。

第五十一條。土地が傾斜地たる場合、勾配は一米につき三糎以上ならざるべし。流し水は絶對に遊戯場内を開溝として流すべからず。

第五十二條。教室が影にならざる程度に、校舍配置に適當なる間隔を保つて樹木を植うるべし。

便所

第五十三條。幼稚園は保姆用、男兒用、女兒用と區別せられたる便所即ち男兒には小便所を設くべし。兩便所は渡廊下にて各教室、雨天遊戯場に通ずべし。

第五十四條。便所は風向が校内又は遊戯場にその瓦斯を送らざる樣配置すべし。十五人に一個の割に割當て幅五十五糎、奥行八十糎とす。

第五十五條。坐臺は木製リュネットにて全部を覆はず。その高さ約十五糎とし些少傾斜附にすべし。孔形は凡そ二十八糎×十二糎の平なる形にし、便器にはサイフォンを裝置すべし。

第五十六條。小便所も同樣の割當て、各仕切り、幅三十五糎奥行二十五糎高さ七十糎なるべし。

第五十七條。兩便所の內壁及び床は不滲透性にし角はすべて角丸なすべし。迅速完全なる流水清掃に用ふる給水設備を設くべし。

第五十八條。便所の仕切の壁は通風流水に便なる爲、床上十五糎より二十糎の空隙を殘すべし、その仕切の高さは七十糎以上なる事。

第五十九條。兩便所は扉を附せず、蓋草を匍はせたる桓根により又は板張の塀により各便所の緣より六十糎の所に目かくしを設くべし。この目かくしの高さは七十糎以上ならざる事。

第六十條。完全なる下水裝置を施したる市町村に於ては直接汚物、使用水、共にその下水に排出するを得。

第六十一條。下水に濾過裝置なき市町村に於ては個定又は移動式の壺を井戸より遠くに設置すべし。個定壺は絕對に漏水の憂無き密閉されたるものに別に通風器を設け外部よりの汲取口を備ふるべし。移動壺も通風器を具へざるべからず。

一般的樣式としては最新の府縣衞生設備規定を適用せらるべし。若し淨化裝置を使用する場合その運用法竝びに處理條件を決定する府縣衞生會議の決議によりて許可せらるべし。

如何なる場合にも淨化裝置の壺よりの流出を吸收性の水路に排出せざる事。

宿舍

第六十二條。保姆の宿舍の最少數は既に前記の一八九四年法令に記載せられたる所なれど出來得る限り多數なるを可とす。是等は傍より四米の地點にあるべきなり。

第六十三條。教室と宿舍を直接通ずる通路は設けざるべし。

三、學用品

教具

第六十四條。保育に用ふる物品は左の如し。

一、室內遊具——木製(ゴム製)動物、人形、飯事道具、砂遊び用具(漏斗、桶)、其他室內遊具。

二、遊戲場及び室內遊具——一輪車、四輪車、飛繩、輪廻し、バケツ、シャベル、毬、其他。

三、手工練習必需品——ビーヅ、組紙、折紙、千代紙、毛織物、木綿(無地、色物)先端丸き鋏、編針(鉤叉)粘土、捏り粉(模型製作用)其他。

四、木片、小棒、小板、環、立方體、煉炭、炭團、その他。

五、繪畫。

六、石板、石筆。

七、紙、鉛筆、色鉛筆。

八、音聲調順器

九、攝氏寒暖計(平均室內溫度十五度乃至十七度)

衛生用品

第六十五條。衛生用品左の如し。

個人的必需品——兒童用齒ブラシ、爪ブラシ、衣服用小ブラシ、靴ブラシ、入浴、灌水浴用手拭、其他。

藥品棚、及び藥品容器。內容物左の如し。——アルコール、ランプ、漏斗、金屬性ならざる體溫計の常に防腐液に浸せしもの、鋏類、安全ピン、棘抜きピンセット、ガーゼ濕布、ガーゼ繃帶、脫脂綿、布類、ゴム絆創膏、燧石、(すべて是等は金屬性の容器に塵及び汚染を避けて密閉さるべし)。

學用帳簿

第六十六條。市町村よりの至急帳簿、連名簿、若しくは入園兒童記名簿、點呼名簿、若しくは出席簿、校具目錄、學用品目錄、監督醫師用帳簿、個人的保健表。

職員用校具目錄(町村の支給による保姆用器具)

以上がフランスに於ける幼稚園制度の概觀であるが、既に見て來た如く、この國に於ては幼稚園は初等教育機關の一部と見られ、著しく「教育」的な點が、他國と異る最も大きな特徵である。最近に於てはこの點に就いてフランスの內部に於ても異論が生じ、例へば「幼稚園視學協會」の如き、幼稚園は教授や作業の場所でなく、專ら遊戲の場所でなくてはならないとの決議報告を數年にわたつて提出してゐるが、舊い傳統の力は容易に拔くべくもない。

フランスの幼稚園制度の第二の著しい特徵は、それが極めて統一的劃一的な點である。これは單に幼稚園のみならず教育の全制度に通じるフランスの特徵であるが、從つて又保育の內容、設備、管理等に就いて、文部當局がこれほどに明細な規程を設けてゐる國も少い。

最後に、この紹介文を草するについて直接參照した文獻は、

1) Organisation pédagogique et Programmes des Écolles maternelles et des Classes enfantines. (Livrairie vuibert. 1932).
2) Public Primary School System of France. (Columbia University. 1910).
3) Oct, Gréard, Éducation et Instruction.

秋の幼年童謠の中より（下）

葛原しげる

秋も最中きのふも今日も快晴つゞき、小庭の板塀に小蜂がとまつて、居眠りでもしてゐるのか、少しも動かない。大空には、一點の雲もなくて、どこからか、鳶のこゑ、澄んだこゑが聞えて來る。

見上げれば、鳶が一羽、高く高く輪をかいて舞つてゐるのです。兩翅を動かすとも見えず滑走するやうに舞つてゐるのです、ゆるやかに、なめらかに、如何にも樂しげに。

此のとんびの曲は、實は、曲の方が先に出來まして、その曲へ、歌をはめこんだのです。作曲者は、此の印象的な曲想の中に

ピンヨロー

の擬聲の入れ所を、豫想して、反復四回の註文でしたので、その他は、アクセントを重んじて入れるのに多少の苦心を拂ひました、ですから、本來は、

とべ　とべ　とんび　空高く
樂しげに　輪をかいて
なけ　なけ　とんび　青空に
ピンヨロー　ピンヨロー

ピンヨロー　ピンヨロー

とあるべきが多少、順序に無理が出來たのです。そこに、曲想と歌詞との提携連絡に、苦心があります。多くの場合まづ、歌詞があつて、その歌詞による曲が生れるのです。その順序を蹈めば、右の歌詞で、曲は、擬聲の反復で終りますから、やはり餘韻のある曲のものが出來るのでしたらう。しかし、此曲は、中央に、擬聲の反復があつて、最後に、「樂しげに、輪をかいて」の説明があるのですが、曲趣の豐かである爲に、餘韻も十分ですし、全部の統一も正しくて、まことに名曲であります。獨唱曲としても、實に引立ちます。それには、擬聲の歌ひ方に深甚の注意を要します。いかにも澄んで、いかにも滑らかに、歌はれねばなりません。さて、歌詞としては、第一節に

とべ　とべ
なけ　なけ

といつて、第二節が、之に答へる樣に、見てゐると、

とぶ　とぶ
なく　なく

といふのは、あまりに、工夫のない手法ですが、しかし、幼兒には、最も分り易い形式で、多くの中には、この明快なものもあつて宜いと信じます。

とんび

梁田貞氏曲

とべ　とべ　とんび　空高く
なけ　なけ　とんび　青空に

ピンヨロー　〳〵
ピンヨロー　〳〵
樂しげに　輪をかいて
とぶ　とぶ　とんび　空高く
なく　なく　とんび　青空に
ピンヨロー　〳〵
ピンヨロー　〳〵
樂しげに　輪をかいて

（「大正少年唱歌」第一集）

○

秋晴の陽のもとに、ごこにあつても、なよかに、すんなりとして、目につくのは、コスモスでした。「秋櫻」の異名も、花の形には、ふさはしいと思ひますが、櫻ほど、溫かさを感じさせません。どうしても、秋のものとして、澄んでゐて、やゝ冷えた感じです。そしてコスモスに、八重咲のものが有つては――出來ては、困ると思ふほどです。花瓣に射す日光は、花瓣の裏にまで透き通つて、花瓣を明るく見せるのでなくては、コスモスらしくありません。コスモスの語、それは宇宙をも意味します。宇宙にひろがる花ではありませんが、小さいながらもすく〳〵とのびて、何に遠慮するところもなく、しかも、弱い癖に、長い莖を思ひきり伸してゐる自然さは、人間に眞似の出來ないところです。

私にコスモスを歌つた三樣の舊作があります。しかし、どれも、右の心持以外に何もありません。唯コスモスは、多くの場合、群生させるものですから、小輪の花が、あち向こち向亂れ咲くところ、また、高く咲き、低く咲くところ、まる

で多くの幼兒が、めい〳〵に遊んでゐる樣子も見えるのを歌ひました。

清げなコスモスを、朝のものゝ見たのが前者で、

「庭一めんに　朝日をうけて」

「笑顔で　朝のあいさつするよ」

と特殊づけました。後者は、

「よろこんで――をごつてる」

と、特殊づけました。

コスモス　　小松耕輔氏曲

すく〳〵のびて　コスモスさいた
眞白や　赤の　花うつくしく
　のこらず咲いた
　きれいに咲いた
庭一めんに　朝日をうけて
庭一めんの　コスモスゆらぐ
眞白や　赤の　花　みな　ゆらぐ
　あちらをむいて
　こちらをむいて

笑顔で　朝の　あいさつ　するよ

（「大正少年唱歌」第三集）

コスモス

弘田龍太郎氏曲

コスモス
コスモス
うすももいろのも　白いのも、
あつち向き
こつち向き
よく咲いて
日に　てらされて　よろこんで
風に　ふかれて　をどつてる

コスモス
コスモス
垣根の外まで　伸び出して
高く咲き
低く咲き
よく咲いて

日に　てらされて　よろこんで
風に　ふかれて　をごつてる　（幼年童謡集、第三輯）

最後のは、コスモスに、こんぼを配した「コスモスボート」といふのです。之は、幼年童謡ではありませんが、面白がられてゐるもので、幼兒の中にも十分歌ひこなせるものがあるのでせうし、又、先生方が、幼兒に歌つて上げて下さる事も願はしいのです。

コスモスボート　外山國彦氏曲

垣根の外まで　すく〳〵のび出て
眞上を向いて　一輪咲いてる
コスモスに　こんぼ　が　一ぴき
すーと來て
靜かにとまつて　動かない
背中に　お日が　ぽか〳〵と
ほんとに　氣持が　よささうに
こんぼが　とまれば　ふら〳〵ゆらいで
あぶない花を　風が吹いては
なほ　ゆする
どんなにゆれても　じつとして

平氣で　ゆられて　うれしげに
とんぼ　は　ボート　に　乘つた氣か
ひろげた羽根に日があたる

何れにしても、コスモスは、すつきりとした氣持のよい花です。一輪咲いても美しく、群れて咲いても美しく、秋にふさはしい花です。そして、雨に濡らされてゐても、やはり、目につく花です。雨の日のコスモスの濡れた美しさも、よい童謠になりませう。

○

雁は秋の空の旅行者、棹になり、鍵になつて、子供たちを大悅びさせます。一群の雁の先登をとぶ一羽は、首を右に、また左に廻しながら方向を定めて飛んで行きます。その樣を見て、地上の子供達は、騷を大きくして、

がん〳〵　かぎになれ
さをになれ
後の雁は　先に
先の雁は　後に
仲よく　わたれ

と、はやしたてます。すると、群の中の一羽二羽が聲を立てゝ、ないてくれますと、子供等は、「そら雁がないたことばかり、更に騷ぎを大きくして、またも、

がん〳〵　かぎになれ

さをになれ

です。その中に、眼界から去つて行つてしまふのですが、どこまで行くのでせう。池なら、この村にもあるものを、池まで越えてしまつて、どこへゆくのでせう、忙がしげに翅うちかはして行きますこと。

最後の「がん　がん　がん」は、親しんで呼びかけるのです。その曲が、また最も效果的でありますので、一度きいたら忘れられない曲だこいはれてをります。

雁　　梁田貞氏曲

がん　がん　渡れ
きれいに　ならび
つばさを　そろへ
おくれず　わたれ
　がん　がん　がん
がん　がん　どこへ
いそいで行くか
お山をこえて
お池をこえて
　がん　がん　がん

○

（「大正幼年唱歌」第七集）

秋の最中は、どこの里でも、秋祭り、豐年祭、笛や太鼓の音のよさ。その音をきいてゐるこ、もう、ぢつこしてをれないので、幼兒は、大人の仕度の出來るのが待遠くて、せきたてます。ぢれつたがります、大きいお姉さまは、まだお化粧中、お母樣は、まだ帶を結んでいらつしやいます。幼兒は、まづ、ちやんこ着換えさせて頂いて、下駄も、新しいのを、ちやんこはいて、下に下りて、待つてゐますのに。御門に立てた大幟が、風もないのに、ハタ〳〵動く—こは、ウソです、風は有るのです。しかし、ヒュラ〳〵ドン〳〵こ聞えてさへ來れば、ハタ〳〵動く樣に見えるのは、幟も、祭が好きで、嬉しいからでせう。都會の幼兒には、かうした樂しみがありません、氣の毒ですね。

お祭り　　小松耕輔氏曲

ヒュラ〳〵　ヒュ〳〵ラ　ドン、ドン、ドン
向の森から　太鼓こ　笛が
面白さうに　聞えて　來るこ
　御門に　立てた　大幟
　風も　ないのに　バタ〳〵動く
ヒュラ〳〵　ヒュ〳〵ラ　ドン、ドン、ドン
面白さうに　聞えて　來るは
お宮の　祭りの　神樂の囃
　天氣の　今日は　日本晴
　皆で　早く　おまゐりしませう

（「大正幼年唱歌」第七集）

此「お祭り」の歌でなく、幼兒には歌へなくても、先生か、お母様かに、歌つて頂きたく、幼兒に聞かして上げて頂きたい「お祭り」の歌があります。此は、擬聲の音樂が大層面白いので、學藝會等では、特に歡迎されてゐるものです。少し長いですから、全部でなくても、よいと思ひます。幼兒に最も歡ばれさうな節だけでも、歌つて上げて頂きたいと思ひます。

お祭　　梁田貞氏曲

朝から　ひゞくよ　面白さうに
おはやし　ひゞくよ　氏神樣で
ごん　ひやら　ひやらら
ごんひやらら
ごん　ひやら　ひやらら
ごんひやらら
おはやし　ひゞくよ　氏神樣で
晝でも　夜でも　ひゞくよ　ひゞく
鈴の音　ひゞくよ　お宮の前で
がん　がららん　ひゞく
がん　がららん　ひゞく
鈴の音　ひゞくよ　お宮の前で
めでたや　めでたや　豐年祭

これから　揃うて　おまゐりしませう
いざ　いざ　急ぎ
氏神様へ
これから　揃うて　おまゐりしませう

（「大正少年唱歌」第四集）

實は、右三節の他に、

鳥居のあたりは　左に　右に
竝んだお店が　あれ〳〵　きれい
きれいな　おもちや
きれいな　ゑほん
竝んだお店が　あれ〳〵　きれい
うれしや　御空に　雲さへ無くて
幟が　いくつも　はた〳〵竝ぶ
あれ〳〵　竝ぶ
あれ〳〵　竝ぶ
幟が　いくつも　はた〳〵竝ぶ

の二節も有るのですが、少し、長すぎるかこて省いたのです。然し、事情に因ては、此も歌つて聞せて上げて下さい。

○

秋の特色の一つは、木の葉が落ちる事です。それも、春、知らぬ間に木の芽が出てゐると同じに、知らぬ間に落ちはじめてゐます。思へば、自然の力は不思議です。

一體、どうして木の葉は落ちるのでせう。今まで、運動場の片側で、また、砂場のほとりで、よい日かげをしてゐてくれた木の葉です。それが、知らぬ間に落ちたのです。

幼兒にとつては、それを「何故」と怪しむだけの餘裕もなく、すぐ、

「やあ、よく日がさすやうになつた、やあ、あたたかい〳〵。皆、お出でよ、いゝなあ。」

などゝ、極めて、天下泰平であるでせう。それで、いゝのです。

唯、一本の木、それが、夏は、よい日かげをしてゐてくれて、その下かげで、皆を涼しく遊ばせてくれたのに、少し寒さに向ふと、その葉が落ちて、日あたりが善くなつて、そこで、溫かく、又、皆をよく遊ばせてくれるといふことは、まことに、有難いではありませんか。

こんな事に氣はつかなくても、幼兒は結構です。後になつて、かうした神祕的な事實、いえ、かうした事實に祕められたる不思議に心づく樣に、その芽生を、幼時植えつけて置く事が、幼兒指導者の一面の仕事でもあるでせう。此の童謠は、その目的で作つたのではないのですが、その役目をも果してくれさうです。特に

知らぬ間に落ちた

の一句を、尊重したいのです。又

日のさすところへ

皆　出て　あそべ

にも、意義はあるのです。

おち葉　　小松耕輔氏曲

木の葉が　おちた
　すずしい　かげを
　　して　ゐて　くれた
木の葉が　おちた
しらぬ間に　おちた
何の木の　えだも
　葉が　みな　おちて
　よく　日が　さすよ
日のさす　ところへ
みんな　出て　あそべ

（「大正幼年唱歌」第三集）

○

秋もたけて、山また山は、紅葉して來ました。赤い色になり、黄色になり、美しく化粧しました。化粧して何處へ行くのか、とは、あんまり大きな問です。山の向ふのですから。しかし、今までは、緑の一色であつた山々が、一齊に、美しくなるのは、一體、何うしてでせう。

この疑問は、前の「落葉」についてと共に、一度は、起させてもよい疑問です。

するこ、

「今に、冬のおばあさんが來るから、お迎へに參ります」

こも答へるでせうか―なに、そんな事は、何の山だつて、返事なんかしません。しかし、さう考へて見る事は、出來ませんかしら。

もみぢ山　　小松耕輔氏作曲

赤いべべ着た　赤い山
きいろいべべ着た　きいな山
きれいな　べべ着て
どこへ行く

今に北から　ばあさんが
白いべべ着て　北風に
のつてくるから
おむかへ　に　　（「山の椿」より）

或人は、ポストが歩き出すこか、電信柱が歩き出すこいふ樣な想像は、コドモに非科學的な考へ方をさすから、いなけいこいひます。それも、さうです。此には又、別な考へ方もあり、導き方もあるでせう。こゝでは、此に依て、冬來る前の秋の紅葉の美しさを感じさせれば足ります。そして又、冬が、白いきものを着て、北風にのつて來る、こいふ考へ方を、覺えさせる事が出來れば中等學校になつてからなど、他の事物の鑑賞に際して、役立つ事もあるでせう。（をはり）

兒童心理學文獻抄 十一

牛島義友

數の觀念の發達

數を知つて來るといふ事は智能發達の有力な表徵である。一つ二つ三つ位迄しか數へられなかつた幼兒が急に四つ五つと云へる樣になつた時の親の喜び、更に十以上までも數へる樣になるとその他の智識も急にふえて來て、はや一人前の子供になつて來る。ビネーの智能檢査の標準によると、五歲に於ては十三迄數へ、六歲になると數へなくても手の指の數が五本である事を知つて來る。八歲になると一から二十迄數へる丈でなく、二十から十九、十八、十七と逆に數へたり、或は簡單な計算(四錢のものを買つて貳拾錢渡したらお釣錢がいくら來るか)が出來る樣になる。故に子供の數觀念の基礎的なものは幼稚園時代に於て涵養される。

此の幼兒の數の觀念を理解するには、未開人の數の觀念を知ると教へられる所が甚だ多い。未開地を旅行した人は土人は幾ど數を知らずブラヂルの或る土人が二、三、四、まで數へてそれ以上は澤山といふ丈であり、濠洲タスマニアの土人は普通二まで勘定し、多くてせいぐ四迄數へられる。時には更にそれに一つを加へて「四に一つ丈多い」といふ云ひ方をして五の計算をしてゐる等。……と報告をしてゐる。併し彼等には少しも數の觀念なく又計算が出來ないと考へるのは誤りであつて彼等の數へ方と文明人の數へ方とは根本的に相違してゐる爲に以上の樣な不思議な事實が現はれて來る。然らば未開人の數の數へ方、ひいては物の考へ方は如何なるものであるかに關して、形態心理學者

ウエルトハイマーの教示に富んだ研究がある。

未開人の思惟に就いて（M. Wertheimer: Über das Denken der Naturvölker, Drei Abhandlungen zur Gestalttheorie 久保良英氏著形態心理學に紹介あり）

まづ例を上げやう。「庭に生えてゐる二本の樫の木と一本の松の木とで何本か」と聞くと「二本と一本」と答へる。此の木を伐り倒して筏でも組まうと川の所に持つて行き、改めて之は何本かと聞き直すと今度は三本と答へる。又そこに自分の村のカヌーが三艘と他の村のカヌーが二艘あつても合せて五艘とは云はずこちらの舟が三艘、あちらの舟が二艘と云ふ。唯同盟を結んで一緒に遠征するといふ場合に丈は五艘のカヌーと云ふ。

即ち彼等にとつては、松と樫はちがつたものであり又自村と他村とは關係のないもの、敵である故に之を一緒に扱ふといふ事は考へられない。之を一緒にして計算しても全く無意味な事としか思はれぬのである。併しそれが筏になつたり、軍の道具といふ風に同じ目的の下に齎された時はじめて一緒に數へる樣になる。即ち吾々文明人の數は抽象的なものであつて數へられる對象の、如何に拘らず數へて行くが未開人に數へられる對象と數とが結付いてゐて具體的の數へ方をする。

或る米人がインディアンに英語を教へる時に「白人が今日六頭の熊を擊つた」といふ文章を譯させやうとした所そのまゝ譯さうとはしなかつたと云ふ事である。何となれば白人が一日に六頭の熊を射殺する等は考へられぬからであつた。

又數へる對象によつて數へ方がちがつて居るのは未開民族に共通であつて、日本語が昔から一匹、一羽、一頭、一艘、一本、一册等と云つてゐるのはその名殘りであると考へられる、更に數へ方もちがつてゐる事がある。ガッッェル半島の土人は果物なら四、八、十二、百二十と勘定し、貝殼の貨幣は六つ宛計算し、薄い竹ぎれの樣なものは八、十六、二十四といふ風に計算するといふ事である。

又彼等は子供と同じ樣に數へる時に指をよく使ふ。その使ひ方も色々凝つたものがあつて、例へばフェットワイズの記す所によればニュートメロンのズルカ族は物を數へる

時右の親指から折つて行き五つになるとこの丈だ、と右の拳を出し、更に左手で六から十迄を數へる。十になると兩方の手だ、とさし出し、十一は足の親指をさし、十五になると二本の手と一本の足といふ風になる。二十になつた時は二本の手と二本の足がすんだとか、或はこの一人前になつたと云ひ、二十以上の數は相棒の手足の指について同樣に數へて行つたりする。

以上の具體的な數へ方といふものが未開人の特色であり。同時に又子供の數へ方に就ての特徴である。

尙原始人の數觀念に關しては小田氏のレヴィブルーの紹介があるが幼兒教育に資する處が多いと思ふ(小田信夫氏**原始人の數感觀念**、教育心理研究第八卷昭和八年)。併し次に同じく小田氏の學齡前兒約六百名の實驗に基く研究に就いて述べよう。

小田信夫氏　**兒童の數意識の研究**(教育心理研究第八卷)

一歲前後の子供に美しいラムネ玉數個を與へて置いて急に取上げると怒つて泣出す。此時一個返してやるとそれで滿足して泣止む、別に一個不足するとか二個不足する等とは考へない。處が一歲三ヶ月頃になると二個返してもらはねば滿足せず、一歲半になると三個の中から一個減じても少い事に氣付く者すらあり、三歲前には四個の中一個取つても氣付く樣になる。尙三個の中から一個取去ると氣付かない子供でも三個と二個とを竝べれば勿論其區別が出來る。

又二歲頃になると目耳、足袋、手袋等が對をなして居る事を知つて來て、足袋の片方が見へなかつたりすると泣いて求めたりする。

其數へ得る數は三歲以前までは三個で、此頃から四まで數へるが、それ以上になると澤山とか「イカイ」と答て原始人と同じ數へ方をする。尙興味のある事は或物について數へる事が出來る子供でも對象が變ると數へる事が出來ない事がある。例へば二歲九ヶ月から三歲の幼兒十六名に(四つまでは數へる事が出來る者)ボン〳〵、石彈、ボール、ステッキ、雜誌の五種の事物を數へさせた處、ボンボンは凡ての子供が數へる事が出來たが、石彈は半分の者しか數へられず、ボールは三分の一、ステッキを數へる者は

僅かに二名で、雜誌は一人も數へる事が出來なかつた。此事は原始人の場合、數へ方が對象に應じて相異する事と相通ずる。

又幼兒には一二三と命名する事と數へる事とは別であつて、或三歳の子供は納屋にある四個の米俵をうまく數へて「四つある」と云つたが、其中最後に數へた一俵を殘して他の三俵が運び去られた後に幾俵殘つて居るかと質ねたら、矢張「四つある」と答へた、卽ち四つとは四番目のものに對する名稱であつて未だ數とはなつてゐない。

其他原始人と同じく數へる物の位置によつても影響される。四つまで數へる事の出來る二歳十一ヶ月兒の前の食卓の一端に二個のボン〳〵を置き、他端に二個置いて皆んなで幾つあるか尋ねたら一方で「一ッ二ッ」と數へ、他端でも「一ッ二ッ」と數へるだけで、皆で幾つかは答へる事が出來なかつた。

尙獨乙のベックマンの幼兒の數へ方の研究が同氏に依つて、詳細に紹介されてゐるから一讀を御すゝめしたい。(小田、**幼兒の數行爲の發達**　教育心理研究第九卷　昭和九年)

(松本彥三郎、**所謂「數へる」に就いての研究**心理學論文集四　昭和八年)

同　**幼稚園兒童の「數へる」事と其の發達**

同　**數概念の原始構造より算術教育論へ**(教育心理研究第八卷　增田博士謝恩最近心理學論文集　昭和十年)

まづ五歳の幼兒十名程に數を數へさせた所或者は十迄しか數へられないのに他の者は百二十、百五十迄數へる事が出來て居り、平均六十三位迄數へてゐる。而も之は日によつてちがふ事がある。或子供は或日は八乃至二十五位迄しか數へられなかつたのがそれから十日後には百迄數へてゐる。百迄數へるのに要する時間は人によつてちがふが平均八十六・七秒である。而し之は一樣のテンポで數へるのでなく、所々で停滯するが、主として三十九、四十九、五十九、六十九等の十位の終の所で悶へてゐる。又とばす事も五十位から割に多くなつて來る。併し二つ續けてぬかす事は殆んどない。

次に數へるといふ事についてもう少し立入つた考察をなしてゐる。

心理學者シュテルンはその娘が三歳七ヶ月の時五本の指を擴げて幾つあるのと聞いた所、數へて見ませうと云つて一から五迄正しく數へた。それで指は幾つあつたのと聞くとそれには答へず又最初から數へ出した。何回繰返しても同じ事で、最後の指が第五番の指だといふ事は分つてゐるが、併し指全體五本あるといふ事は分らない。此事は前述の小田氏の例と同樣に此の頃彼女には數は他の言葉と同じ樣に單なる名前であつてまだ數へるといふ機能は現はれてゐないのである。之が正しく數へる事が出來る迄には色々の段階を踏む、例へば四歳八ヶ月の被檢者は十本の釘を數へるのに一つ二つ三つと八つ迄數へそれで幾つかと聞くと五つと答へた。此の答は勿論間違つてゐるが前よりは一段進んだ發達したもので、唱へるといふ事の外に五つといふ數の觀念が出來てゐる。

次の段階に於ては最後に唱へた數の名前と、答へる數とは一致してゐるが、唱へる途中に於て間違ふものである。例へば一つ二つ三つ……十五、十七、二十一、二十五、二十六、十九と唱へて十九だと答へる樣なものである。斯る段階を經て正しく數へる樣になる。

其他數へると云ふ事の心理學的解明がなされてゐるが餘りに專門的になつて居るので紹介を遠慮する。

以上の幼兒の事物に則した數へ方が多くの經驗をつむに從つて、其事物から離れて、數だけを切離す抽象的な數觀念に進んで行く。

○幼稚園創設六十年の放送

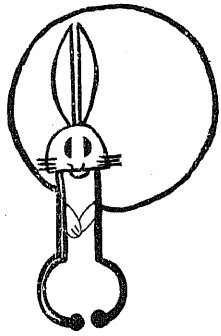
本年は我國幼稚園創設六十年に當るに就て、十一月十六日(土)の開園記念日に、午後二時からその記念放送があり、AKからは倉橋惣三氏BKからは望月くに女史の講演が全國中繼せられる由であります。忘れずに、御いつしよに、その日を記念しませう。

○本會秋期講演會

本會主催の秋期講演會が本誌廣告の通り、十一月九日(土)午後一時半から開かれます。久し振りの講演會、殊に乙竹博士の講演は最も有益なる內容と豐富の興趣とを期待せられてゐます。多數の方々御來聽下さるやうお待ちしてゐます。

○愛育主催展覽會

恩賜財團愛育會主催のこども愛育展覽會が、十一月一日から十日間、日本橋區高島屋に於て開かれます。乳幼兒の愛育に關し、諸方面の問題が網羅せられ、幼兒保育者の見落してはならない展覽會であります。



おはなし おみやげお団子

武田雪夫

ある日のこと、小栗鼠さんはチョロ〳〵と走つて、小兎さんのところへ遊びに行きました。

すると、小兎さんのお家の入口の戸は、ぴたりと閉つてゐました。

『おや、お留守かしら。』

小栗鼠さんは、さういひながら、自分のまあるい小さな尻尾で、戸をたゝきました。

トン〳〵、トン〳〵、トン〳〵トン。

さうすると、お家の中から、可愛い聲で、

『はァい、たゞいま。』こいつて、小兎さんが、ギイッと戸を開けました。

『こんにちは、小兎さん。』

小栗鼠さんは、にこ〳〵して頭をさげました。小兎さんも、うれしさうに、

『こんにちは。まあ、あなたでしたの。さあ、お上りなさいな。』こいひました。

小栗鼠さんは、小兎さんのお室へ入つて行きました。

すると、お臺所の方から、

『ペタ〳〵トン〳〵、ペタ〳〵トン〳〵。』こいふ音が聞えました。

小栗鼠さんは、小兎さんに、

『あれ、なァに?』と聞きました。すると、小兎さんは、

『おうちの母さまよ。今日は、大へんおいそがしいんですつて。だから、わたし、ひとりで、おとなしく遊んでゐたの。小栗鼠さん、ゆつくり遊んで行つてね。』といひました。

それで小栗鼠さんは、小兎さんと仲よくお人形さんごつこをして遊びました。小栗鼠さんは、ごんぐりに細い木の枝をさして、それに葉ッの着物を着せて、上手にお人形を作つてあげました。かはいゝごんぐりのお人形が、たくさん〳〵出來るので、小兎さんは、大よろこびです。

そこへ、小兎さんのお母さんが、お臺所から出て來ました。

『さあ、お三時が出來ましたよ。』

さういつて、小兎さんのお母さんは、おいしさうなお團子を、ふたりにごつさり下さいました。小栗鼠さんも小兎さんも、「いたゞきます」をして、

『おいしい、おいしい。』といつて食べました。

それから、小栗鼠さんと小兎さんは、また仲よく遊びはじめました。ほんとうに〳〵仲よく、夕方になるのも知らずに遊んでゐました。

すると窗から、まんまるなお月さまが、おのぞきになりました。そして、

『小栗鼠さん、小栗鼠さん、もうお歸りなさい。お母さんが呼んでゐますよ。』とおつしやいました。

『それでは、さやうなら。』

小栗鼠さんがさういつて、お家へ歸らうとしますと、小兎さんのお母さんが、

『これは、お母さんにおみやげですよ。』といつて、お團子をごつさり、大きな葉ッぱに包んで下さいました。

小栗鼠さんは、よろこんで、「ありがたう」と「さよなら」をいつて、いそいでお家に歸つて行きました。

ごんなに小栗鼠さんのお母さんは、よろこんだでせう。だつて、小兎さんのお母さんは、お團子を作るのがお上手です。ほんとにおいしい〳〵お團子ですもの。おしまひ。

○　○　○

育兒の神樣少子部螺贏

奈良縣童話聯盟　仲川明

大和の國、泊瀨朝倉宮に天の下治しめした雄略天皇は、養蠶奬勵の大御心から、侍臣の螺贏に命じて國內の蠶を集めて來る樣命じ給ふたが、螺贏は子を誤り考へ、國中からたくさんの子供を集めて來て奉つたといふ話は日本書紀雄略天皇の項に左の如くのせられてゐるのである。

三月辛巳朔丁亥、天皇、后妃をして親ら桑こきて以て蠶事を勸めしめむと欲す。爰に螺贏に命せて、國內の蠶を聚めしめ給ふ。是に於て、螺贏誤りて嬰兒を聚めて、天皇に奉獻る。天皇咲まし、嬰兒を螺贏に賜ひて曰く、汝宜しく自ら養へ。螺贏卽ち嬰兒を宮墻の下に養ふ。仍りて姓を賜ひて少子部連と爲す。

この螺贏が、その集めて來た子供を雄略天皇から戴いて、自らこれを養ふことになり、少子部連といふ姓を賜ふたといふ話は、私達子供の事業に携つてゐる者にとつて、實に嬉しい說話であります。

少子部　何といふいゝ名でせう。然もそれが天子樣から賜つたといふ傳說は私達にとつて實に喜ばしいことです。この恩賜の育兒園のあつた所はどこであるかといふことを永年さがしてゐたのですが、こんどそれがわかる事になり、螺贏を祭つた神社もわかつて來たのです。

それは、奈良縣磯城郡平野村飯高といふ所で、その他は昔から子部の里といつて、すがる田といふ地名も殘つてゐます。こゝに祭られてゐる螺贏神社（又は少子部社ともいふ）は、螺贏に養はれた子供やその子孫が螺贏を祭つた神社であります。

昔から鬼子母神や子守神社など、育兒に關する神樣はありますが、一つは異國の神であり、一つは母性愛を表す神樣であります。世の親が我が子を愛育するのは、世の常の

姿でありますが、育兒院や、託兒所や、幼稚園や、乃至小學校の保姆や先生方は、他人の子供、社會の子供を我子の

（前賢古實所載）

如く愛育したいと念願して、日夜子供を保育してゐる者ですから、これらの人々の神樣として、少子部螺贏を崇めたいと思ふのであります。

奈良縣童話聯盟では、去る昭和五年から、全國有志の贊成を得て、古事記を傳へた稗田阿禮を「お話の神」として毎年八月十六日には「**阿禮祭**」を行つて來ましたが、それと相對して、「育ての神」として、この螺贏を祭る「**すがる祭**」をも毎年臨地にて行ひたいと思つてゐます。今年はその第一回として、來る十月十三日（日曜）に行ひます。全國の幼稚園、託兒所、育兒院等、保育事業、育兒事業關係者の御贊同を得御參拜を得たいと存じます。

場所は大阪から伊勢に通じる大軌參宮線で、大和の高田と櫻井の中間、眞菅驛下車北方一粁の所です。

（「すがる祭」當日は眞菅驛から自動車で御案內いたします。尙勝手のわかり難い時は奈良市奈良縣立圖書館內奈良縣童話聯盟へ問合せて下さい。）

幼兒に聽かせる話の實際

（夏期講習會に於ける速記）

久留島武彥

話し方の講習と云ふもの程ジレンマに陷り易いものはないのであります。これは實際問題でありますから、この、お話が出來なかつたならば……たゞ理論を覺えて置くと云ふだけでは何の役に立たない。同時に私が此處で話して居る間にこれを聞かせ得なかつたならば話し方の講習の講師としては落第であります。所が丁度暑い時に遠くから朝早くお起きになつて此處に御出でになる。話の間には多少お睡くもおなりになるだらう。その心持のいゝお顏を拜見するのは私には光榮でありまするけれども、これは私の講習から言うたならば要するに話し方の落第であります。でありまする上に、私の頂いた時間が僅かに二時間、僅に二時間で如何に語るかと云ふ事は、萬金丹の效能ではないけれども これはおしが強いのであります。それでありまするから、申上げる事は略〻、大體斯う云ふ樣な心掛けで話と云ふものに向ふべきが正しいのではなからうか、と云ふ樣な概念的な事を申上げるに過ぎないと思ふのであります。出來るだけ實際問題に觸れまして其の間に實例を引き度いと思ひますが、何うか貴女方が左樣なる立場にある私に御同情下さつて、この概念の中から、當嵌る實際的な問題をお引出しを願ひ度いと思ひます。

先づ私は、話と云ふ事を貴女方にお考へ願ひ度い。「一寸今日は貴女方が指導者だから今日の記念日のお話をなさつて下さい」斯う云ふ事を園長或は主事からお賴みをお受けになつた時に、貴女方の中で「よう御座います」と直ぐ引受ける方があるでありませうか何うでありませうか。大概の人は「私お話は難しいわ」と言ふ。唱歌の指導なら出來

る、遊戯の指導なら出來るがお話をしろと言はれると大概な者はこれに二の足を踏む。これは十人が殆ど十人でありませうが何故でありませう。何うしてそんなにお話と云ふものに二の足を踏まれるとその危懼躊躇の考が湧くでありませう。こゝで貴女方に伺つて見度い。「立つて下さい」と言ふと貴女方は造作もなくお立ちになるでありませう。「手を上げて下さい」と申上げる。「右の手です」直ちに右の手を上げるでせう。「上げたまゝ左の手を横にお上げなさい」上げるでせう。「右の手を前にお向けなさい。これでぐるつとお廻りなさい」廻るのは造作なくお廻りになるでせう。然るに「一寸手を上げて横に出して一廻り踊つて御覽なさい、一寸手を動かして踊つて御覽なさい」と言ふと「私踊る事は出來ないわ」と言ふでせう。同じ事であります。手を上げて前に向け、手を横にして下に向け、ぐるつと廻る。誰にも出來る事ですけれども、踊ると云ふその踊る形が違ふか、……違はないのであります。違はないのであるに拘はらず、踊ると云ふ言葉を使つた時には直ちに躊躇し、一つ々々それと同じ條件を並べた時には遠慮なくやる。もうちつと簡單な事を言ふならば、「ステージの上を歩いて御覽なさい」と言ふと誰でもする。それを「踊り乍ら廻つて御覽なさい」。こゝで直ちに顏を赤らめ或は身を退ける。話と云ふものに對してもさう云ふ感じはありますまいか。「お話をなさつて御覽なさい」斯う言ふと、話と云ふものに貴女方は一つの犧牲觀念がある。何か間違へた一つの捉はれた考がありやしませぬか。そのくせ貴女方は生れてから一日も話をしない日はないのであります。朝起きてから夜寢る迄、一人でない限りは必ず話をされて居るのであります。然るに何故「話をなさい」と言はれた時にそれを難しい事と考へるかと云ふのは、何か貴女方に、子供の前でする話、他人の前で際立つてする話と云ふものゝ解釋に何か捉はれた觀念がおありになりはしませぬか。これを私は先づ考へて見る必要があると思ふ。

それは何であるか。話と云ふものを、踊ると云ふ言葉と同じ意味に藝術的表現の下に現はす話、或は身體の動きと云ふ

樣な捉はれた觀念がおありになるのじやないか。話を以て藝術の所産――藝術の產む所――さう云ふ樣な考が貴女方におありになりませぬか。それであるから、話をすると云ふには藝術的にやらなければならぬ、美しくやらなければならぬ、調和が取れて居らなければならぬ。さうしてそれが全體に一つの纏つた出來上つたものでなければならないと云ふ先入主……或は一つの既成觀念と云ふものがおありになりやしませぬか。これを一つ御自分で御自分の心にお尋ねになつて見ると、大慨然らずと仰言る方はありますまい。何故左樣な捉はれた考で話にお向ひになるか。私は此所に一つの誤つた動機があると思ふ。それは、今日迄話と言はれて語り繼ぎ言ひ繼げる、……或は話として貴女方が御解釋なさる所のものは、世界の民俗を超越し、國土を超越し、時代を超越して、何處で話しても、誰に話しても、何時話しても差支ない樣な話が段々〳〵選り分けられ、或は殘された一つの共通な形を持つたものがある。これを、貴女方の頭では話と解釋して居られるのではないか。子供の聞き度い話は、その時代を超越し國土を超越し民俗を超越して共通の形を持つた話を話と解釋する他には、子供の求める話は他にはない樣なお考を持つていらつしやりやしないだらうかと思ふのであります。それは、共通の形と申しますと、貴女方が古い話を既に多くお讀みになつて御覽になると、東洋の話にも西洋の話にも一つの共通の形と云ふものがある。或は東洋だけの話の中にも一つの形がある。同じ形、同じ心の動きがある。例へば日本で申しまするならば瘤取りの話であります。あの瘤取りの話は、山の中で正直な親父が木を伐つて居る中に夕立で雷が激しいので大きい木の洞に逃込んで雨を避けて居る間にいゝ心持でぐつすり寢込んで了つた。眼が覺めて見ると夜になつて暗闇で山を下りる事も出來ないので夜明を待つて居ると、鬼がやつて來て踊つた。それが大變面白い。それでそのおじいさんは面白くなつて、自分もつひ飛出して踊つて了つた。鬼も喜んで「明日の晩やつて來い。お前の樣な者が一人加はると興味が深いから明日も一緒に踊らう。それには、人間は嘘をつく。何か來る約束を置いて行け」と云ふので瘤を取つて預

つた。これに對して心良からぬ年寄が、その事を聞いて、俺が代りに行つて瘤を取つて貰はうと云ふので、行つて、かへつて瘤をつけられた。これは誰も御承知でありませう。所が朝鮮に同じ形がある。たゞ日本では山……人間ならざるものゝ住む處を考へて居るが、朝鮮では古い空家であります。これが色々の化物の居る處とされて居る。日が暮れて道が分らなくなつたので空家に這入つて休んで居ると夜中に化物が出て踊つた。その男は歌を歌つて居ると、その化物が「大變面白い。お前は何うしてそんなに上手く歌へるか」と言ふので「この瘤が歌袋でその中に歌がある」「それならば寄越せ」、「やられぬ」と言うたが無理矢理に取つた。それを聞いた慾張りの親父が翌晩行くと「あれをつけたが、歌へない。そんな嘘を言ふ者にはもう一つ瘤をつける」と昨日取つた瘤をつけられた、と云ふ話であります。所がフランスの西北の海岸ブリトンと云ふ處に同じ形がある。東洋ではこれが瘤であるのに西洋では佝僂であります。あつては醜い、無いと姿が清らげに見えると云ふ……佝僂であるのも瘤があるのも同じであります。東洋には象皮病が多く西洋には佝僂が多いと云ふ事も自然に分ります。兎に角樵夫が木を伐つて居ると、サンデーマンデー〳〵……日曜月曜〳〵と歌ひ乍ら踊つて居る聲が聞える。谷を窺いて見ると山の小人が手を繋いで輪をかいて踊つて居る。あまり面白くなつたからその樵夫は佝僂であつたがその中に加つて踊つて居ると「面白い明日も來い」と言つてせむしを取つて預つた。するとその同じ村に慾張りの佝僂が居つて、俺が行つて取つて貰はうと言つて谷底に行くと、今日は山の上で踊つて居る。上に上つてサンデーマンデーマンデーと言うたが、何時迄經つても何とも言はない。それで、いゝ加減に取つて貰ひ度いと思つて、火曜水曜〳〵と言ふ非常に怒つて「餘計な事を言ふから面白くない。餘計なものをやれ」と言つて、佝僂を取つて載せたから身體が二つに折れる樣になつた。これがフランスであります。これが又アイルランドの田舍にもありまして、若者が買物に行つて草臥れたから休んで居る中に眠り、眼が覺めるとつきしろが上つて居る。さうして踊の聲が聞えるので行つて一緒に踊り佝僂を取られ

た。翌日これを聞いた者が行つて、矢張り昨日の佝僂をつけられた。皆同じ形でありませう。斯う云ふのは或は傳つて來たのか、兩方とも偶然にあるのか、心正しき者は身體に災があつてもそれが自ら除かれ、心邪しまなる者は、災の上に尙ほ災を附加へられると云ふ心の働きは同じ形になつて現はれる。

それかと思ふと又歷史の上或は傳說の上に現はれたものを御覽になると、英雄、偉人、特殊なる人は必ず水の上に浮いて流れて來る。これが多いのであります。第一、日本の桃太郎は桃の中で水の上に流れて來たのをお婆さんが拾ひ上げた。何處から來たか分らない。これはお伽噺であります。所が西洋の歷史物語の中の一つの、エジプトのあのナイルの河に、葦のみきを組んだ舟……小さい箱舟の中に流された子供がモーセとなつて、これがイスラエル民俗の爲の大きい力となつて働いた。それかと思ふとイタリーのローマを拵へた所のロミアスミーマスと云ふ子供は、ダイバ河に流れて狼に銜へられて穴の中で育てられた。これが今日のローマを建設した。

斯う云ふのを調べて御覽になると臺灣の一番初の人も朝鮮の初の人も皆海の上に浮んで流れたと云ふ人が偉い人間で、國を開き民俗の運命を司つて居る。何うして斯う云ふ樣な形が出來るのでありませう。

まださう云ふ形を並べると、貴女方の近い所で澤山あるのは、お伽噺の中には三つと云ふ數を必ず使ふ。これ亦一つの形でありませう。三人の兄弟、三つのりんご、三番目、それが段々進んで來て所謂數に對する觀念の進みは文化の進みでありまするが、その文化の進んだものは、七つ八つと云ふ……西洋では七つに次で十二と云ふ數が現はれて居る。日本でも八つと云ふ數が彌益々の彌で、これが八つと云ふ數に現はれる。八咫の鏡、八束の垂穗、八岐の大蛇、八巷と云ふ樣な工合に八つと云ふ事が多い數の代表になつて現はれる。

それかと思ふと、必ず賢い者が子供の中では失敗する。さうして馬鹿な奴が必ず成功する。兄弟三人あれば先の兄二人

姉二人は失敗して、一番末の鼻垂しの馬鹿と思はれる妹、弟が成功する。貧乏人が成功して金持が失敗する。美しいと言はれた者が失敗して醜い者が後にはより以上の美しさを現はす。

又、今日は存在を許す事が出來ない立場に迄迫つて來て居ります一つの形は、女を以て或仕事の御褒美にすると云ふ形であります。例へば今日貴女方に、マラソンの一等賞は女高師を出た一番の生徒、と言ふならば許されるでありませうか。銀のカップの代りに美しい女、こんな事を言ふならば御憤慨なさるでありませう。所が現實に吾々が子供に話して居る所の多くの話の中に最後の御褒美となり、最後の事を成就した時に握り得て樂しみの材料になるものは美しきお姫樣。それが初は美しきお姫樣であつたが、文化が進むに隨つて美しくて賢い……美しくて賢いだけでは滿足出來ないから、美しくて賢くて身分のあるお姫樣。さうなつて來ると王樣のお姫樣になつて、キングスドーター……。これが如何にお伽噺の中心思想、理想の權化となつて居るかと云ふと、アメリカの耶蘇教會で處女會を、キングスドーターソサイアティーと云ふ名前がつけられて居る位で、娘には、キングスドーターと云ふ名前がよく響いて居る。所がこれを分解して見ると、或事業、或大きい骨折の御褒美に同じ人間である女が材料として扱はれる、褒美に出されると云ふ考であります。これ等も世界共通な形でありまして、これは鎌倉時代に書かれたお伽草紙と云ふ書物を御覽になりましても、西洋の……そこらに轉つて居るお話を御覽になりましても共通の形であります。斯う云ふ形を御覽になると云ふと、これが子供の聞き度い話……斯う云ふ樣な形になつて殘つて居る話が子供の喜ぶ所の話であると貴女方はさう云ふ誤解をなさつて居る樣な傾きはおありになりやしないだらうかと思ふ。形となつて殘る程でありますから適應性を持つ……違つた民俗にも違つた風俗にも違つた時代にも適應性を持つ、所謂適者生存であります。適者生存で、さうして民俗、時代、國土、歴史、あらゆるものを超越して何時何處で話しても、誰に聞かせても彼等が喜ぶと云ふ醇化されたものが形となつて多く殘るのであ

ります。その醇化されたものは、卽ちこれを文學の上から見ると、藝術の所產と斯う見られるのであります。一つの立派な藝術品になつて居るのであります。誰が見ても喜ぶ、何時與へられても嬉しい、何んな國にこれを投出されても誰もが飛付くと云ふ樣なものは無條件で藝術品と言へるのであります。その藝術品である所のものにのみ貴女方の眼が働く、心が用ひられて、子供の求める話は藝術品でなければならぬと思ふ樣な誤解、錯誤に陷つて居られないだらうか。子供の話は必ずしも藝術品を求めるとは言へないのであります。子供は、藝術品であるからこれを鑑賞しよう等と云ふ樣な、第三者の立場に立つて物を見ると云ふ樣な程度には達しないのであります。

こゝで私は、子供に話す話と云ふものに就ては、先づ話方を考へる前に根本から子供の求める話と云ふものに就ての解釋をもう一度見直す必要がある。根本から解釋する必要がないだらうか。この點に就て貴女方が御自分で、話と云ふものに就てお考へになつて御覽なさい。指導者として何か子供に話さなければならないと云ふ樣な時に貴女方が求める話の材料は何處かと云ふと、大概藝術品として纏められた書物の中から探し出さうとする傾きがないだらうか。此所に根本の間違がある。それを土臺として私は先づ子供の話と云ふものを、如何なるものが子供の話であるかと云ふ所からこゝに申上げて見度いと思ふ。

貴女方程子供を毎日お扱ひになつて居る者はないから、少し氣を付けて御覽になると材料が目前に轉つて居ると思ふが、子供は何故あんなに話を求めるのでありませうか。何うしてあんなに一つから二つ、二つから三つ、三つから七つ、七つから十、飽く事を知らない。何故あんなに子供は話を求めるのでありませう。その話を求めるのは滑稽だからでありませう。面白いからでありませう。何うしてあの話に滿足するでありませう。こゝで私は貴女方に一々伺ふ事が出來ないから多少自問自答をやらなければならないが、滑稽だから子供が喜ぶと云ふ……その滑稽と感ずるのは、子供が滑

稽と感ずるのか話す人……大人が滑稽と感ずるのか、私はこれは大人の方が滑稽な話と感ずるのではないか……。子供は滑稽と感じて居ない。大人は、突拍子もないものを子供は喜ぶと言ふ。何うしてあんな馬鹿げた途方もないものを子供は喜ぶかと大人は考へて、子供は實に滑稽突梯なるものを喜ぶのであるが、それは大人の解釋ではありますまいか。子供からは滑稽とは感ぜない。子供が受取る心の態度、子供が聞いて喜ぶ所の彼等の心の動きを貴女方が眞面目に御覽になると、彼等は決して突飛とは思はれない。それはあり得る事と思ひます。それは、現實にさう云ふ事がある事と思つて解釋する。それで、馬鹿げた事とは子供は決して思はない。たゞ大人の眼には餘りにそれが現實と離れ過ぎて居る、餘りに大きい、餘りに强い、餘りに甚し過ぎる。滑稽と云ふものゝ中には斯う云ふものがある。餘りに誇大であり餘りに非現實である。斯う云ふ樣なものが大人には考へられる。さうして大人から言ふと結局矛盾であります。喰ひ違つて居る。斯う云ふ樣な事が大人には滑稽と考へられる。こゝに、面白いこれを補ふ所の一つの材料として貴女方がお分りになるであらうと思ふものは漫畫、今は漫畫時代と呼ばれる位、大人の世界にも子供の世界にも漫畫が喜ばれる。何故かと云ふと、漫畫程誇大性に物を扱つたものはありますまい。例へば今の內閣諸大臣を扱ふのに、一寸あるかなきかの黑子が大きく畫かれる。少し顎が四角いと思ふと、それが正四角形の顏に畫いてある。頭の毛が少し薄いと二三本毛がかいてある。所謂誇大性がある。種がないのじやない、特徵がないのじやない。それから非現實と云ふのは、さうして誇大にして見ると云ふと現實の人間とは大分喰ひ違つて見える。これに依て摑ませる材料は他のものと比べて明かに特異性……非現實と言ふよりかこれを斯う云ふ言葉で言うた方がいゝと思ふ。特異性——特別に異つた所の性質をそこに現はす。それと現在のものと比べて見ると矛盾が甚だしい。それに非常な興味を感ずるのであります。であるから興味はこの矛盾性にある。特異性はこれは解釋の基礎、記憶の土臺になるのに一番簡單な遺り口であります。一番分り易いやり口であります。物を誇大に扱

ふ。私がボンと飛んだ。二米位飛んだ。(手振りにて)これじやあまり飛んだ樣に思はぬ。パタ〳〵と飛んで來てヒョイと飛ぶ。二三百米ブーンと飛んだ。すると如何にも、ブーンと云ふなり聲に依て飛んだと云ふ氣がする。飛んだと云ふ事がハッキリ現はれて居る。此所に漫畫の價値、漫畫の呼びかける力、漫畫の興味を起す所がある。子供に話す話の誇大性を以て大人が滑稽に感じ、大人からは非現實、特異と思はれるのは、子供の印象を強く增すと云ふ上から言うたならばこれは洵に簡單なる印象の强い見方であります。同時に其所に矛盾を感ずるから滑稽觀を唆られる。おかしいと云ふ解釋は、子供は決してこれを誇大と思はない。特異性とは思はない。子供は盡く現實に解釋するのであります。大人はこれを相對的に考へる。離れて解釋する。大人と子供は凡てのものを現實に解釋すると云ふ立場の相違があると云ふ事を土臺に置いて話を考へると、子供は、滑稽な話を喜ぶとか面白いから喜ぶと云ふ解釋は、これは實に無駄な解釋で子供の解釋ではない。而もその面白いと云ふ理由は何であるかと云ふと、子供の面白いと感ずる理由と、大人の面白いと感ずる理由は違ふのであります。

大分理窟つぽくなりましてお分り難いかも知れませぬが、要するに子供の求める話と云ふものは、滑稽だからと大人が感ずる話を求めるのじやない。特に、これが誇大性を持ち、或は特異性を持つから子供が喜ぶと感ずるのは間違であります。況んや現實と矛盾して居る話であるから……と考へる如きに至つてはこれは大間違であります。これは寧ろ弊害があります。子供の求める話は何んな話を求めるか。殊に幼稚園の兒童並に尋常一年の子供が喜ぶ話は何う云ふ話を求めるかと云ふと、何でもいゝ、何んな話でもいゝ、分りよくすればいゝ。何でも子供の心に合點の行く話であれば、子供の知識の程度、子供の理解力の程度に於て成程さうかと合點の行く話であれば子供は非常な滿足であり、非常な喜びであるのであります。それであるから木の葉の散る話でもいゝ。水の流れる話でもいゝ。或は金魚鉢の中のものが何故ゆら〳〵と動

いたか、その話でもいゝ。子供の心に浮び上つた材料に子供が注意を向けた時、其所に疑、或は知り度いと云ふ心を起した時にそれに滿足を與へる解說、子供の理解力の程度に依て分らせる、合點の行かせる事の出來る話を彼等は非常に喜ぶのであります。これが殊に尋常三年以下……二年以下の子供の求める話の大體でありまして、殊に幼稚園の話は藝術的製作品であつてはならない。藝術的製作品……世界共通の形の働く話を以て話と心得る樣な着眼點は根本から改めなければならない。何でも話してやる。それであるから、或意味から言うたならば幼稚園の子供に對しては、凡てのものゝ解說凡てのものゝ說明……長い必要はない。子供の混雜を起させない程度に於て說明を加へてやるがたゞこれは子供の分る程度であります。これを根本に入れて置かなければならない。私がよく使ふ材料でありますが五人の男の子を連れた父親が警視廳の前から電車に乘つて櫻田門の側の濠端を三宅坂の方に向つてやつて來た。さうするとお堀に五、六羽の鴨が浮いて居る。其の時に子供が「お父さん、鴨が〳〵、と〻〳〵」と言ふ。さうして見て居る中に鴨が五羽程竝んで動き出した。「お父ちやん、どれかものお父ちやん?」と言つた。すると親父は「馬鹿！どれが鴨のおやじか分るか。」これは親父から言うたら無理もない。何處からやつて來たか分らぬ鴨、まさか鴨の戸籍謄本を調べる譯にも行かぬから、どれが女房か親父か分らぬ筈でありますが、子供の聞いた心の立場は何であるか。自己の生活、自己の經驗を基礎としてその鴨が五羽竝び歩くのを見た時に、どれが鴨のお父さんだらう、自分達が五人歩く時にお父さんは何處に立つて居るかと云ふ經驗から來た解釋であります。それで知りたかつたのであります。それであるからお父さんから言ふならば「馬鹿！どれが鴨の親父か分るか」と云ふのは僞らざる事を言うたのでありますが、子供に取つては發達する心の働きの芽をつみ切つたものでありまして、親としては落第であります。斯う云ふ時に若し私が親であつたら「さうだね、どれがお父さんだらうな」と言つて子供と共に更に鴨の竝びに姿を向け、眼をつけて「一番先に泳いで居るのがお父さんだよ。後から竝んで行くのがあのお

母ちやんに坊や。だから坊やはお母ちやんの後にくつゝいて居るだらう、後から行くのはねえやか他の者か、お伴しませうこちよこ〳〵〳〵附いて行くのだよ」すると子供は「チョーオチョーオ」と言ふのでありませう。子供はあの鴨の戸籍が分つたので滿足したのではない。自分の經驗と自分の生活にぴつたりとこれが當嵌つて、成程自分もお父さんは先へ立ちお母さんの横に子供、ねえやは後からだと思ふ所に滿足がある。その鴨が眼についたと云ふ事は親父の教材としては實にいゝ教材である。所が親が落第したのは「馬鹿！どれが鴨の親父か分るものか」。これで鴨と云ふものが並んで歩いて居るのから受ける所の子供の教育的な知識と云ふものは何もなくなつて了ふ。だから鴨を見たならば「馬鹿だね」、馬鹿だね位の解釋しか付かないでせう。

それと同時に貴女方が、何故子供が話を聞き度いかと云ふ心の働きを氣を付けて御覽になつたならば、貴女方の方にこそ子供の求める材料が分る筈である。子供は知り度い。喜び度いのじやない。子供は鑑賞したい、樂しみ度いのじやないのであります。子供の心の働きは、凡てに向つて知り度いのであります。慾求心の滿足であります。殊に子供のあの發育時には凡てのものが疑であります。人世は驚きから始まると常に言つて居りますが、お互の生活の第一歩は驚きであります。非常な驚異であります。それが意識に上つて居るか居ないか分らないが、我々が母の胎内を離れて始めて浮世の空氣に曝された時には非常な空氣の壓力、それと母の胎盤に抱かれた體溫から離れて母の體の外に於ける空氣の溫度を感ずる。これが直ちに我々をして呼吸と云ふ事を起させると云ふので親となつた者は非常に喜ぶのでありまするが、子供の第一聲は驚きの叫びであります。貴女方もなさつたに違ひない。驚きに依て我々の人生が始つた。それから凡てが疑であります。凡てが怪しみであります。凡てが疑懼凡てが疑念、それであるから子供の生活は一切が疑と驚きの生活と言うても宜しい。此所に於てその驚きを克服する程度が大きい程、安全感が持たれるのであります。心に落著きが加はり安心が起

きる、それであるから何でも知り度い。實際彼等の滿足と云ふものは、説明を加へた時に、彼等が何んなに喜びに眼を燿かして「チョーオ〳〵チョーダネ、〳〵」と言ひ乍ら何の位滿足するかと云ふ事を考へて御覽になつたなら、卽ち子供が安全感を增すのであります。

斯う云ふ事を考へて見ますること云ふと、話と云ふものゝ與へ方は、或意味から言うたならば安全感を增させる手輕な解釋になる。同時に彼等の滿足を洵に簡單明瞭に與へる材料となる。それでありますから話は、假に手輕い解釋を與へ、簡單なる理窟をつけ、さうして最も手つ取り早く滿足を與へるものであるが故に、これは骨折らずに受取り享樂する所に話と云ふものを求める心の立場がある。彼等は幾らでも求める。彼等の心に受取れない色々の推理能力が働く、或は注意力が纏まらなければ受取れないと云ふ話ならば彼等はあれ程求める筈はない。彼等に與へる喜びは簡單である。手つ取り早い現實である。

そこで話と云ふものゝ抑々の起りは疑の解決であります。疑念の除去であります。これが抑々の話の始りで、これが今日尙ほ裏書されるのは、世界に殘つて居る童話……所謂藝術品であります。童話の中にも、最も古い最も簡單な形式は大概疑の解決であります。これが一番古い藝術の所產であります。だから藝術品であり乍ら尙ほ且つ疑の解釋、合理的な働きをしたものが今日童話となつて殘つて居る。それは貴女方が古い民俗的な或は子供時代の昔の物を御覽になると、何故蛙のお腹は白いか、さうして脹れて居るか。狐の眼の緣は何故黑いか。何故熊の身體は黑く喉輪が白いか。何うして春と夏は日が永いか。段々進めると、支那は西北に山があつて東南に河がある。斯う云ふのが、知識の程度、理解し易い範圍に於て解釋される。何故楊子江も黃河も東南に流れ込むかと云ふ樣な地文的な地質學的な問題迄も疑の材料として解決を求める時は、民俗が低く頭腦の働きが低いものでありましたからそれは何故かと云ふと、天を支へて居つた四本の柱の一

本が折れて途中でぶら下つて居るのを、或男が頭を打つゝけてその柱が崩れた。さうしてそれが埋つた爲に東南が下つた爲に反對に向ふの方が上つた。それで西北の方に山がある。天の柱が落ちた爲に東南の地面が下つたから楊子江も黄河も東南に流れた。斯う云ふ問題迄も話の疑を起した人間の頭の程度に依て解釋されて「あゝさうか。それで成程東南は下つて西北は上つた……」これで彼等は滿足し、これで彼等は安心したのでありませう。

それでありまするから斯う云ふ事を考へて參りますと、貴女方が古い書物を讀む時に、幾つも〳〵さう云ふ樣な材料を見出す。殊に日本の古事記等を讀んで見ると澤山さう云ふ材料があるのであります。それでありまするから、例へて言うて見ますと、何故生きた人間は死んだ國に行かないか。これ程死ぬる者が居るのに何故人種(タネ)が盡きないだらう。その何故、何うしては、問題は人の生命人の運命に關はる問題だけれども、この何故何うしての問題は、何故狐の眼の緣は黑いか、何故猿の顏は赤いか、と云ふ疑と同じ疑であります。それに對するその時代の知識程度の發育段階に隨ての解釋が、今日醇化された藝術品となつて殘つて居るものが童話の形式で今日迄我々の間に傳つて居りますが、それすら疑の解決であります。所が人間は疑ばかりの解決で滿足するものじやない。

茲に第二段の心の働きが出るのであります。それは何んな働きかと云ふと。第二段は、それなら斯う云ふ事は出來ぬだらうか、それなら斯う云ふ樣な事にしたならばよさゝうなものだ、と云ふ希望と云ふものが起る。そこでその望を遂げさせる方法手段と云ふ樣なものに暗示を與へ解決をつけるのが話の一つの狙ひ所であります。

第一段は疑の解決……寧ろ第一段から言うたら事情の說明であります。第二段が疑の解決、第三段が希望……望を遂げる、希望慾求の滿足、或は慾求を遂げる所の手段方法を暗示する所のものが彼等の求める話の材料になる。斯う云ふ樣なものである事を考へて見ますること、話と云ふものはさう云ふ素質を持つて居るものであれば何でもいゝ譯になります。さ

うして見るこ幼稚園の生活の如きは、凡ゆるものに注意力を集注させなければならぬ時であります。殊に今日の都會生活の子供、幼稚園で一番考へなければならない。保育の要目は注意力を集注させる。今日の家庭の缺陷は注意を求める事が出來ない事でありませう。それで小學校の教職員が幼稚園の保育を疑はれる點は、注意力が散漫であるこ云ふ點でありまず。これは自由保育こ云ふ言葉を解釋し損ね、勝手次第な我儘を發揮するのを自由保育こ解釋を誤つた爲に、彼等は一つのものに注意を向け、一つのものに共同的に考をつける事が出來ないこ云ふ幼稚園保育の惡習慣が附いたのであります。幼稚園保育が惡いのではない。保育者の解釋の誤から出た惡習慣が、小學校に行つて、幼稚園から來た者は注意が散漫だ、先生に注意しない、黑板に注意しない、與へた問題に注意しない、こ云ふ事になるのであります。

私は斯う云ふ事を考へても、私共の現實に於ける保育の最も狙ひ所は、彼等の注意を集注せしめる、私は、注意を引かせるこ云ふ上から、凡ゆるものに對する解說を加へてやる。それであるから、ほんの……木の葉がひら〳〵落ちるのにも「何うして先生木の葉が落ちるのでせう」、「さうだね、段々寒くなつて上の方に居つた所が詰らない。今度來年になるこ土から芽が出なければならない、それで蒲團を着せて暖かくして、ひら〳〵木の葉が落るこ蟲や何かが、これならば芽を育てゝやりませうこ待つて居る」斯う云ふ樣に、何でも宜しい。凡てのものに意味があり。凡てのものに心があるこ解說を加へてやつたならば、子供の注意力は如何に小さいものにも向けられる。私は斯う云ふ點に、幼稚園の話こ云ふものを根本から立直して來る必要に迫られて居る次第だこ思ふのであります。

時間が少なうございますから、どうも飛々に申上げるより外、仕樣がないので誠に殘念に思ひますが、以上申上げました處で話こ云ふものに就ての意義、幼稚園の話の範圍、並にその解釋こでも云ふ樣な意味に御取扱ひ下さつてもよいこ思

ひます。

今度は誠に時間が少いから話方の方を申上げて見ませう。その話方は三通り話方がある筈であります。これは御同樣常にやつて居る事でありますが、何う云ふ譯か話方と云ふと耳に話掛ける話方を――聲を持つ、言葉を以て耳に話掛ける話方――だけを話方と心得る事はなんと云ふ誤りだらうかと思ふのであります。私は耳だけに呼掛けて居るラヂオ放送は、これは嚴密に耳だけでありませうが、貴女方はラヂオ放送を御聞きになつて何の位印象が淡いものだらうか、物足らぬものであらうか。眼を御使ひになる、顏を見せて話をする、この二つの印象の效果と云ふものは殆どこれを使はないラヂオ放送と較物にならぬでありませう。何故、顏を見て聞く、その人の姿を眼にし乍ら聞く事に就て滿足が大きいか。それは受取る處の分量が多いからであります。受取る處の分量が多いと云ふ事は、自分に徹底する處の强さに於て較物にならない程の度が厚いのであります。それであるから眼で見、その姿を我前に描き出してさうして聞く事の出來るものは非常に受取る處のものが受取り易く徹底味が强い。さうして見ると私は耳に話掛けて語つて居ると同時に、眼に如何に呼掛けて語つて居るか、と云ふ事も解るのでありませう。同時に私共の呼掛けるものはもう一つある筈であります。それは心に呼掛けて語つて居る。で話方を此處に假に分けて見まするならば、耳に語る話と、眼に語る話と、心に語る話と、三つある筈であります。

然るに大體の人はその耳に語る話方のみを研究の對象とする。然し斯くも子供に對する限り、純眞無垢な子供に對する限り、殊に彼等の推理能力の發達する幼稚園年齡の子供に對する限り、此時代の子供の持つ最も强い力は何であるかと云ふと、直覺力であると云ふ事は貴女方が始終御體驗なさる事でありませう。直覺の心理に就ては幸によい書物が出て居る。青木庄左衞門と云ふ方が「直覺心理の研究」と云ふ書物を出して居られますから、之は御承知の方もありませう。之は

御覽になつてもならなくとも、日常の生活に於て幼稚園程度の子供は如何に直覺力が鋭いか、その直覺力は直ちに心から心に受取る處の働きであります。曰く言ひ難しであります。何等の推理的な働きを加へず、何等特殊な注意力を持たずに直ちに心に(楽に)ラクーに受取る處の智力が之がこの直覺力であります。その直覺力を吾々が使ふ事が出來きたならば、之を働かせる事が出來たならば、何の位樂に話し得るか、即ち心に語り得る言葉と云ふものが何の位大事なものであるか、と云ふ事が御解りでありませう。

其次には耳に語る言葉よりも眼に語る言葉であります。幼稚園の子供程、釣合を自然に感ずる者はない。歪んで居るか、歪んで居ないか。眞直いか、眞直くないか。正しいか正しくないか。美しいか美しくないか。斯う云ふ點に就ては幼稚園の子供の審美眼はなまじ理窟に歪められた大人よりも遙かに端的であります。鋭いものであります。直ちに中軸を衝くものである。其點に於て先づ子供に語らんとする保姆諸君は姿勢、態度と云ふものが一番彼等の前に吾身を現した時に考へなければならない、話方の第一の心掛けでなければならないと思ふ。如何なる態度をとるか、如何なる姿勢で子供に向ふか。先づ姿勢態度を決める處の材料が貴女方にありまするから、子供に語る材料としては先づ精神的に言ふならば覺悟が必要であります。具體的に言ふならば姿勢に注意せなきやならぬ。處がこの覺悟姿勢、兩方とも之が正しく子供に一つの壓力を以て彼等の智力に訴へて居て、聞く可き先生だ、語られる先生だ、と云ふ感じを與へるのに、一番大事なのは材料を確實に握つて居ると云ふ事であります。材料の把握、箇條書に書いて見ませう。

覺悟
姿勢 } 材料の把握

材料の把握とそれからそれを自分がよく消化して居るか、何うか。それからそれを自己がよく裁つたり切つたり繼ぎはぎ

をしたり、自分が自由に取賄ふ。だから材料を先づ完全に握つて居るか何うか。材料の把握、その材料をよーく自分が合點し解つて消化して居るか何うか。さうして夫を自分が思ふ樣に自由に取扱へるか何うか。消化せるか何うかであります。之が完全に出來上つて居れば自然貴女方の覺悟に悠揚として迫らざる態度がこれませう。從つて腰に落着きが出來て子供の前に座つた時に自らその姿勢が悠然たるもの、泰然たるものがありませう。譬へて之を例をこりますならば、馬に乘つて將校が向ふから來た。（以下手眞似と共に說明）手綱をこつて居る。その手綱の取方でも「シャンコ〳〵」飾りをつけた大將の馬がありますでせうか。「シャンコシャンコ〳〵」之は昔の小荷駄馬であります。今から六七十年前の馬であります。その鈴の聯想が今、吾々の聯想に殘つて居るから、直ちに鈴の音から乘つて居る馬を聯想する。子供に「シャンコ〳〵」と言ふたつて今の子供には解らない。「こりやあ、一體何だい」と云ふ事になる。手綱をどんな風に持つて居るでありませう？。吾々は何も眞實の通りにしなければならないと云ふ事はないが、馬に乘つて居る人を注意して見るならば、「シャンコ〳〵」の代りに「カッポ〳〵〳〵」と云ふ馬の蹄の音こそ、近頃の鐵蹄を打つたあの蹄の音が吾々に殘つて居る。それで「カッポ〳〵〳〵」（身振にて說明）この態度を持つならば、斯う云ふ話方をするならば大將であらうか別當であらうかと云ふ事になりませう。さうすると之と之と（身振にて說明）意識しては此方が違ふ。此方が正しいとは思はれないけれども、自然にその消化が馬の境遇を非常に思はせる。子供と云ふものは氣が付いて居ない樣であるが頭の中に握つて居るものがある。電車を描かして御覽なさい。大人の氣が付かない、目の屆かざる肝心の點を握つて居る。意識して居る部分は少いとは言ひ乍ら彼等が現はす時は自らに眼を通して頭に入れた一つの形を握つて居る。子供は模倣性が强いだけに自然にその形を握つて居るものであります。心の姿に——心象に形を握つて居る。こんな事をしてやると（身振）「お馬そんな事しやしな

い」子供と先生と違つて居る。先生が斯うして(身振)行つた時に馬に乘つて居るらしく子供に受取られる筈がない。これだけは要するに消化の問題であります。貴女方が汽車から降りて、或は其處で物を賣つて居るとか云ふ樣な、その通りを(身振)全部、吾々藝人でないから始めから終ひ迄眞似をする必要はないが、子供の想像力を起させる絲口として、ものゝ呼聲、ものゝ形、ものゝ名、色と云ふ樣なものを少うしは使ふ必要がある。それだけは如何に消化して居るかによつて之が極まる問題である。把握、消化、材料此三つが充實して居るならば、貴女方の態度、姿勢、心構へと云ふものに落着きが出來て來ますから自然子供の前に於て、悠揚たる身構へになつて、之が要するに語る言葉となつて如何に子供をして信賴せしめるかは之は恐ろしいものである。

それから今度は次に心に語る言葉、眼に語る言葉と云ふものは貴女方の腰掛け方、其他椅子の位置、色々ありますが、之も細かく言ふならば、部分的に色々ありますけれども、時間がないから一つだけ貴方方に御願ひしたいと思ふ事がある。それは腰掛けられる時に、あの幼稚園で話をされる時に、立つて話をしても宜いが、出來るならば幼稚園の話は腰掛けて膝の廻りに近く寄せて話す、と云ふのが私は一番理想的だと思ふ。子供の頭に手が觸る程度の距離で話す。多勢の子供を遊戯室に入れて皆な一緒にして話すと云ふ事は餘程心掛けのよい人で餘程壓力の强い人で餘程話方の上手な人でなければ徹底し憎いのであります。お話を聞かせる時、何か注意を與へる時、出來るならば腰掛けて居る膝の廻りに集める。その腰掛方に一つだけ、隨分諸君御婦人として不滿な點は椅子の下に足を入れる事であります。恐らく大抵はこの姿勢(足を椅子の下に入れる)じやありませぬか。まあ前にお出しになつて居る方も多い樣でありますけれども、この姿勢程、不安定な姿勢はないのであります。腰から下が決まると云ふ姿勢程子供を安定せしめるものはない。腰から下を決めるには膝を延ばす事であります。この姿勢であります。(椅子に腰かけて說明)斯くも膝から下した垂線、その垂線より前に足

を出す位な位置にお掛けになる。この姿勢はその爲に子供の眼に呼掛けて安定なる位置として合點が行く。と同時に貴方方としても、斯うして(足を下に入れる)話す時のその心持と、斯うして(足を延ばす)お話になる心持は確かに違ふ筈であります。それでありますから保育室に於けるあの指導者の腰掛けて居る椅子の高さと云ふものは之は微妙なものでありまして、有合せの椅子を取つて直ぐ取つて、腰掛けて話す事は不覺悟だと思ふ。先づ自分の位置を正しき位置に置き、自分の身構へを充分確かりした身構へにして腰掛けたならば、その腰掛けた姿が子供の眼に呼掛ける力は偉大なものであります。要するに心に語り、眼に語り得るならば、それから先は耳に語る位の事は雜作のない問題であります。然るに耳に語らう、耳に語らうとのみ考へて先づ心に語る事を知らず、眼を摑(ツカマ)へる事を知らない爲に骨折る事多くして效果が上らない。今後貴方方が人の前に立たれる時、椅子に腰掛けられる時、先づ自己の立場、姿勢、足の下げ方を決めて御掛けになる事が必要である。私が此處に立つて話をする(壇の前端に立つて說明)貴方方に近い。私の顏が前に出て……すぐに身體が前に落ちさうになる。之で頻りに話をして居る。私に安定があると思ひますか。之じや實に危なつかしくつて仕樣がない。よく演說等をやられる人は始まりは此處で(正面中央)挨拶をして居るけれども、段々前に出て來て(端に立つて)「諸君!」斯う云ふ調子でやつて居る。(笑聲)あれは耳に聞かして居る。貴方方に與へる印象は甚だ薄弱だ。話す人が强い言葉を使へば使ふ程その價値が疑はれる樣な氣持がする。從つて今度御歸りになつて敎育報告をなさる時でも、此處(壇)に御上りになる。御婦人は斯う云ふ所に立つて(場所を指示して說明)遠慮氣味で斯う云ふ調子で御話になる。之は禁物であります。何卒壇の上に上るならば一米多く上らうが二米多く上らうが同じ事である。餘り遠慮なさらずに向ふから一、此方から二位の場所の釣合をとつてその安定が宜しい、と云ふ所に立つてお話になれば落着きを認められる。だから話の內容にも深みを覺えるのであります。チョコ〳〵と此處に出て來て「私は今日此處で……」(笑聲)如何にも小さく見える。

話の内容はいゝかも知れませぬが。この姿勢と云ふものは大事なものである、と云ふ事が御解りになりませう。其處で獨唱家等がステージに立つ時の足を氣をつけて御覽になつて見ると、それによつてその人の覺悟姿勢ステージ慣れして居るか居ないかと云ふ事が貴方方に直ちに解る。ニューヨークから來たガリクルチと云ふ女史の如きはドレスを着て居るからではありますが、此ステージに立つた時に兩足を踏み開いて居る。裾模樣でやつたら大變なものでありますが、兎に角に十間なら十間の舞臺に立つて一人の獨唱家が一ぱいになつて見える。心に呼掛ける力は此處にあるのであります。足、腰から下にあるのであります。斯う云ふ點は殊に子供に對しては私共が餘程考へてかゝらなければならぬのであります。この位置、要するに呼掛ける處の吾身體の位置、その形と云ふものは餘程御注意を願ひ度い。

それから第二に、貴方方に求める點は手を動かす場合に、肱から下で形容をなさると云ふ事は之は非常に姿を小さからしめ、肩から動かすと之は子供の心、或は眼に呼掛けるのであります。肱から先でやると早くも行きますが、小さい。肩から行くとごんな小さい形容をする時でも「向ふ(ムコー)の方から見まして此方の方に來ます(手振にて說明)又向ふの方から來ます。ずーと左の方に來ます」(手振)この話が小さく見えるか大きく見えるかであります。「何卒此方へ」(小さい身振)「何卒此方へ」(大きい身振)肱から先を使つたならば實に見苦しい。肩から使つたならば大きくなる(身振)肩から大きく持つて行くのであります。(身振)此處迄は何をするのか解らぬ。丸か四角か、平たいか解らぬ(身振)此處迄手を持つて來たならば、それから形容するのであります。「まんまる」であります。それは一寸した眼に這入つても解らぬ樣な小さいものです。之だけです(身振)この肩から動かす、この習慣をおつけになつて御覽になると貴方方が子供に對しても大人に對しても、貴方方の姿勢はゆつくり見える。大きく見える。落著いて見える。要するに美しく見えるのであります。さうして子供はよく指を使ひませう。「僕一つ」「僕三つ」幼稚園はよく指を使ふ。私共はつひ釣込まれて料理屋に行つて「二人前だよ」

指を使ふ。(笑聲)之(指)を使はないと解らない樣な氣がする。お互小さい者を相手にして居るものゝ共有性です。その指を使ふ時に之を早く使ふと誠に眼に呼掛け心に呼掛ける力が薄くなる、淺くなる。「向ふの方から來ます、此方へ來ました」(指を動かして說明)之を早く使ひますと大變賤しくなる。「皆さんを可愛がつて、皆さん寢て居る間も心配して居るのは誰でせう」(指で早く示して)「この先生」この先生がおつちよこちよいに見える。それを長くゆつくり大きく使つて御覽なさい。「皆さんの寢(やす)んで居る時も皆さんの事を考へて居る先生が居ますよ。誰でせう「あつ、それはこの先生です」(大きく指示)この先生が大きく懷しい先生になる。「それはこの先生」(早く指示)(笑聲)この指は實に大事なものだから、めつたにそんなに貴女方御使ひになりますまい。けれども世の中の演說される人がこの指を使ふ事がある。早く使はないと可笑しいと思つて使ひますが、凡て態度、動作は、餘り手振は、早く使ふならば見苦しい、と云ふ事を覺えてお置きになつたらば宜しい。ゆつくりと間延びした位にお使ひになれば決して品位を落さない。それから身振は肩からお動しになれば決して賤しくは見えないが、肱から先に動かすと可笑しい。之は遊戲の講習にも必ず二つの型があると思ふ。肩から動かしてやつて居られる方と肩は其儘にして手を動かす方とある。之は四十を越した老保姆の方が「鳩ポッポ〳〵」(手振)それは可笑しい。寧ろ儉約せずに大きく之で(肩から動かす)やられる方がよい。今日氣をつけて御覽なさい。あれは肩から動す。あれは肱から動す、と云ふ事がよーく御解りになります。肱から動してはごんな遊戲をやられても子供には誠にぎこちなく、そして貴方方には甚だそれは非舞踊的であり非遊戲的であります。之は演壇に立つ態度も、話方の子供の前に座る姿勢も、遊戲の動かし方も同じ事であります。此の肩から動くと云ふ事であります。

其外にはもう別に貴方方にその眼に語る言葉と云ふ意味に於て申上げる事はないと思ひますから、後僅かの時間で耳に

語る言葉即ち聲と言葉と云ふ問題を申上げておきませう。第一此處に耳に語る言葉で一番困る問題は子供のもつて居る言葉の數と、大人が持つて居る言葉の數が違ふと云ふ事であります。數が違ふと云ふ事と同時に之を出す處の知識、經驗が違ふと云ふ事であります。「よう言はんわ」と云ふ言葉を關西の方が使ひます。之は甚深微妙にして曰く言ひ難し、とでも使はれるでありませう。或は此頃「ちと憂鬱だわ」と云ふ樣な大人にはこの意味はよく解る。色々に變化して使はれる。子供には之を解釋する基礎知識がない。子供の持つて居る、一番吾々が考へなきやならぬものは子供の語彙、言葉の種類それがどんなものであるかと云ふ事であります。處が此處に幸ひに丁度幼稚園程度の子供の持つて居る言葉の數を調べられた久保良英博士、廣島の文理科大學の教授が日本の子供の滿二歳から滿六歳迄の統計が擧つて居りますから之を御參考迄に書いておきます。滿二歳の子供の平均の言葉の數

滿二歳	一六五
同三歳	四六一
同三歳半	七〇一
同四歳	九八一
同五歳	一二三七
同六歳	一三六四

之は母親の知識の程度、その子供の家庭の程度、さう云ふものによつてこの言葉の數や種類は違ひますが、まあ日本で今日迄調べた處によると、之が一番標準になつて居つて、松本亦太郎博士も之を引用されて居りますし、その他博士や學士の人も引用して居られますから、先づ間違ひないものとして吾々も之を標準にさらなければならない。御承知の通り滿六

歳で一三六四だから吾々が扱ふ子供と云ふものはこの範圍の言葉しか持つて居ないのであります。此處で一寸説明を要するのは滿三歳と四歳との間に三歳半の七〇一と云ふ特殊な數字が出て居る事であります。之で御解りになりませう。人間一生涯の言葉と云ふものを習得するその率の一番多いのは滿三歳から四歳の間である事が御解りでありませう。一體幼稚園年齢の時程よく言葉を覺える時代はないと云ふ結論になるのであります。子供の言葉を覺えると云ふ事は非常に廣い範圍の知識を確實に握る事であります。それでありますから一つの言葉を正しく覺へさせて、正しく使ふと云ふ習慣をつける事、或は一つの言葉を覺えさしてそれを利用させると云ふ習慣をつけると云ふ事は餘程考へなければならぬ問題でありまして、一つの「水」と云ふ言葉を覺えただけでも冷い水とか飲みたいとか流れるとか或はそれは川にあるとかコップの中に這入つて居るものだとか井戸の水であるとか色々關聯した意味、働きになるものでありますから一つの水と云ふ言葉を確實に覺えると云ふ事は子供の知識、生活の範圍に於ては非常に廣さ、範圍を纒める事になる。此處に簡單に言ひますと、滿三歳から四歳迄の間は他の年の一年間に覺える言葉の數を半年に覺える。それであるから三歳から四歳迄の間は他の年の二年分を一ヶ年に受取る時代であります。聞き嚙りをすぐに口にし何でも一寸耳にしたものを言うて見る。之は微妙な人の働きでありまして、之は貴方方も御記憶なさつていゝ事で「憶へて置かう、之は記憶しておいて他日使はう」と云ふ材料は聞いた時にすぐ友達に話して見る事です。自分が耳から聞いたものを口に出して語つて見る。之程記憶法に簡單な確實なものはないのであります。活動寫眞を御覽になつて感銘、興起する事があつた、説教を聞いて今夜のテーマには社會生活によいものを與へられた、と云ふ時はその歸途、寺から出る歸りの石段の降口で、或は道路で自分の友達に女中でもよし、それを話して見る事がよい。一度口から出して置くと之程、簡單な記憶法はないのでありまして、子供が滿三歳から滿四歳迄の間に如何によくおしやべりをするかと云ふ事が御解りでありませう。お父さんがお隣の小父さんと話し

て居るのを聞き嚙つてそれを平氣で妹に使つて見たり、お母さんに「母さん今日はかなり暑いのね」何處かで「かなり」と云ふのを聞いて、意味は解らぬが耳から聞いた事を直ぐ口に出して見る。之があの時代の特徴で從つて彼等の記憶力はこの時代に非常に加へられる。此處に私共が考へて見なければならぬ問題は、この位の程度の子供の言葉の數を此位であるとして之に話掛ける吾々の言葉の數は何の位でありませうか。之は日本で調べたものはありませぬ。ロザノフと云ふ學者が、コロンビヤ大學のロザノフ・カートパトリックと云ふ人の調査によりますと、先づ普通人が一萬千七百語を語る。それから大學生所謂特別な高等知識を修得して居る大學生が二萬百二十語を使つて居る。斯う云ふ事を言うて居る。さうして見ますと普通人が一萬一千、大學生が二萬としまするとと、一萬五千と云ふものが大人の日常使ふ言葉と考へて差支ありますまい。一萬五千の言葉を持つて居る大人がその約十分の一の千三百しか持たない子供に話をすると云ふのには餘程吾々はハンディキャップと云ふものを持つて居ると云ふ事を考へなければならぬ。吾々の一萬五千の言葉の中から千三百の言葉を拾ひ上げてそれを使はなければならない。之程面倒な事はない樣でありますが、最近九州帝大の豐田と云ふ博士が雜文の中に斯う云ふ事を書いて居られる。ニューヨークのベル電話會社――私設ベル會社――が調べたものに面白い統計を出して居る。五百通話を材料としてとつて、其等の五百通話で男が八百八十話して女が百二十話した。その八百八十と百二十その男と女の通話の中から言葉を何の位彼等が使つたらうか。電話で話すのでありますから或は商用もありませうし或は工業用、法律もありませうが、彼等の電話に使つた言葉を拾ひ上げて見ると、その五百通話、人間にして千人のその言葉の中から拾ひ上げた言葉は二千二百四十語で話したと云ふ事が解つた。その二千二百四十語の中に八百十九の言葉と云ふものはたつた一度しか使はなかつた。だからたつた一人が一度使つた事であります。その二千二百四十語の中から八百十九を引きますと云ふと、殘りが千四百二十一であります。さうすると千四百二十一の言葉は皆なが五百通話

の中で使つた言葉であります。さうして見ると結論としてベル會社の發表した處によると、人間の用談と云ふものは餘程特殊なものでない限りは千四百語の範圍で樂に用事が足せるものだ、と云ふ事を豐田博士が發表して居るのであります。私共は此處に於て私共の結論を得た樣な氣がする。電話で話すと云ふ事は相手に解らせると云ふに一番頭を働かす。その解らせると云ふ事は用事は隨分難しい用事があるに違ひない。併乍らその難しい用事を僅か千四百語で話すと云ふ事を考へたならば子供の持つて居る言葉千三百の言葉は大人は少うし考へたならば彼等にかなり難しい事を解らせ得るではなからうか。斯う考へて見ますと云ふと、吾々は言葉と云ふものを如何にもつと眞面目に吟味しなければならないか。考へなければならない。然るに吾々が子供に向つて話をする時には吾々の日常使つて居る、吾々の知識で理解し得る言葉を平氣で話す。之を子供が誤解すると云ふ事は、誤解させるものが惡いか誤解するものが惡いか。この點に於て恐ろしい罪を重ねて居る事を考へるのであります。殊に子供は似た言葉の響きがあるとそれを直ちに混線させる癖がある。「先の帝の御車は果ての在でましあらせらる」と云ふ唱歌を「先の帝の荷車は果てのいでましあらせらる」御車が荷車になつて居る。彼等の知識に御車はない事であつて、荷車ならば彼等の日常生活にある。御車等は彼等の體驗せざる、彼等の持合せのない言葉であります。直ちに持合せのないものは解らぬので持つて居る似た響に變つて了ふ。勅語奉答の歌を尋常一二年の子供が「露も叛かじ朝夕に」を、「露も寒風朝夕に」と歌つて居る。「つゆも叛かじ」なんと云ふ言葉は彼等の普斷使はない言葉で「寒風」と似た音に變つて「露」と云ふので「寒風」と言へば子供にはよく解るのであります。之が勅語奉答になるかならないかは一向問題にならない。さう云ふ混雜を起させる事を吾々は考へなければならぬ。子供に受取つたものは全く違つたものに受取られたならばそれは與へるものゝ罪であります。斯う云ふ事を考へて見ますと、言葉と云ふものは吾々餘程吟味しなければ不可ない。

一つ最後に附加へて置きませう。殊にこの言葉を御婦人が御使ひになる時に呼吸が充實して居ない。呼吸の問題であります。呼吸が充實して居ない。之は姿勢が悪い。空氣の逃易い樣な上半身の角度をこつて居られる。前屈みになつて胸に壓迫を加へる。精神的に充分な準備がこれて居ない、消化が足らない、自然に落著きがない。それでありますから御婦人——御婦人こ言つては失禮でありますが、人に話をする時は呼吸が充實して居ない。呼吸が充實して居ないが故に聲に壓力が加はらないのであります。聲がかすれるのであります。聞きこり難いのであります。斯う云ふ點を御考へになりましたならば、話方に姿勢こ云ふものが何の位大事なものであるか、覺悟が何の位大事なものであるかこ云ふ事が解るでありませう。

其處で最後に一つの祕傳を御敎へ申上げてこのお話を終り度いこ思ひます。それは子供に對しても大人に對しても貴方方が誰に對しても、吾が心を傳へよう、外の者に自分の意志を傳達しようこ思はれたならば、言葉を傳へる時は、先づ顎を引くこ云ふ習慣を付けられる事であります。「一寸顎を引いて下さい」(一同顎を引く樣にこ)ずつこ姿勢が眞直になりませう。顎を引くこ同時に自ら自分の肩が高まる。「顎を延して下さい」(一同に)同時に胸が屈まる。處が御婦人の姿勢は肩が下り易い。斯うする(顎を延ばす)こ呼吸に壓迫を感ずる。此處で顎を引く、こ云ふ習慣をおつけになる。胸顎を引いて御覽なさい。さうして「皆さん」こ言つて御覽なさい。「皆さん」こいきなり呼掛けるのこ顎を引いて「皆さん」(實例にて說明)此時に貴方方が御自身の强み弱みに於て明かに等差のあるこ云ふ事に御氣付きでありませう。「皆さん顎を出して御覽なさい」「皆さん顎を引いて御覽なさい」(一同に)之はもう一つ此處に例を言ふならば東鄕元帥こ乃木大將、乃木大將こ云ふ方は何こなく慕はしい、懷き易いお爺さんの樣な氣はしませぬか。東鄕元帥こ云ふこ何こなう謹嚴そのものゝ如くで、寄りつけない樣な感じを持ち易い。寫眞を拜見して私にはさう云ふ感じがするのであります。所が事實に於てですね。乃

木大將程よく吐言を言はれた大將はないのであります。中々之は難しいお爺さんで第一聯隊長としての時代は若い將校等はビリ〳〵して居つた。却々理窟の多いお爺さんであつた。所が東郷元帥と云ふ方は決して吐言を言はない。何にも言はれない人なんです。處が誰が考へても乃木大將は親しみよく懷き易い樣であり、東郷元帥は近附き難い。何となくさう感じられる。其の基く處は何處にあるか。顎の問題だけである。東郷元帥の姿勢(顎を引いて)御寫眞をよく見て御覽なさい。乃木大將の姿勢(顎を延して)斯うして居られる。之は私は自ら明治三十六年三笠艦に御訪ねをして「愈々これから戰爭になりさうでございますが私共國民は何う心得たら宜しうございませう」と伺つた時に、部屋の中に這入ると出て來られた時がもう之(顎を引いて)です。だからもうぐつと抑へつけられる樣な、咽喉のかたまりが出來てものが言へない樣な感じです。乃木大將の御寫眞を御覽なさい。之が(顎)斯う出て居る。那須野の開墾に、鍬の柄に手を載せて斯うして居られる。片瀨の濱で鉢卷をして立つて居られるのも絕えず顎が出て居る。力が拔けて居る樣な樂な氣がする。顎を引くと如何にも恐しい近寄り難い樣な氣がする。この顎を引くと云ふ事は自己の身を守るについては一番簡單な態度であります。それでありますから子供が人に寄りかゝつてものをねだる時は斯う顎を出すでせう。「よう〳〵いゝでせう」(顎を出す)此時にお父さんが拒む時は之(顎)を出して拒むかと云ふと必ず顎を引いて拒む「そんな事を言つても不可ぬ」(顎を引いて)この顎は呼吸の調節に大變に役に立つものであります。顎を出すと呼吸が逃げる。顎を引くと咽喉の角度が「く」の字になる、或は「へ」の字になる。肺臟から出て來ます呼吸が咽喉によつて調節されます。話して居る間に時々顎を出すが宜しい。出さうと思はずとも自然に人は樂になりますからその時、時々「顎顎」と斯う思つて時々顎に歸る。その顎に歸ると云ふと呼吸の調節が非常に樂になりまして落著いた聲が出せる。落著いた呼吸が出來るのであります。之は誠に微妙なものでありまして、私が三十何年の長い間の體驗からやつと得られました一つの祕訣は顎に氣がついた事であります。始まり

は子供の前であらうと人の前であらうと吾身體をもつて人に呼掛ける。眼に語る。始める時は先づ肩に氣をつけろと云ふ事を過去三十年氣をつけて來た。肩が崩れたり、肩が流れたりすると品位がない。壇に上る時、人の前を通る時、肩に氣をつける。肩に餘り氣をつけると强くなり過ぎますが(肩を張つて說明)(笑聲)。

肩に氣をつけると云ふ事は前から自分も心得て居りましたが、肩を以てして未だ足らない。顎を引く事が大事です。それですから今度この講習を御聞きになつて歸つて御話をなさる時に、お話を始める時に先づ顎を引いて立つ。さうしてお辭儀をしてすぐものを言ふのが大概の癖であります。之が大間違ひであります。すぐものを言ふ時程、人の注意の集注して居る時はない。この時にこの姿勢は弱い。顎を引く。段々身體が軟らかくなつた時に顎に氣をつけてぐい〳〵と引きつけて行く。話は心に語るもので耳に語るのは部分的の作業であります。況んや純眞な子供に語る話の如きは心を以て心に語る。滿腔の同情を持ち子供が何うかその彼等の第一歩を履み誤らせたくないと思ふならば、何も藝術的な作品の話を聞かせずとも、さう云ふものによつて彼等の滿足を買はずとも、身の廻りにも幾百千の話題を持つ事が出來る。蓄音機のあの盤によつてどの位の時間どの位の話が出來ると云ふ事は御經驗になつて居りませう。あの一面が廻るのは三分七八秒に廻るのが丁度頃合であります。それを考へると三分の間にあれだけの話が出來ると云ふ事を御考へになつて見ますと、私共は如何にこの話と云ふものは、言葉で話す事は樂であるが、それよりも心に話し、眼に語る事の方が重大な話であるかと云ふ事を御理解を願ひ度いと思ひます。二時間の間でありましたが、語つて盡さず、ほんの部分的な話でございましたがよく御淸聽下さいまして有難うございました。(了)

(文責在編輯部)

日本幼稚園協會編輯　幼兒の教育

會長　東京女子高等師範學校長　下村壽一

主幹　東京女子高等師範學校教授　附屬幼稚園主事　倉橋惣三

日本幼稚園協會規則

第一條　本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條　會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條　會員ハ會費トシテ一ケ月金參拾五錢ヲ醵出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條　令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條　幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラルヽモノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條　本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條　本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査

一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

一、雜誌發行（毎月一回）

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名　會務ヲ總理ス

主幹　一名　會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事　若干名　會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員　若干名　重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條　會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條　主幹　幹事　評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推擧スルモノトス

第十二條　本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルヽコトアルヘシ

第十三條　本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ケ月分	金參拾五錢
半ケ年分	金貳圓拾錢
一ケ年分	金四圓貳拾錢
拾貳册	送料共
六册	送料共

廣告

特等面一頁	金貳拾圓
二等面一頁	金拾圓
一等面一頁	金拾五圓
一頁以下	御斷

神田區駿河臺一ノ三　品田廣告社に御申込下さい

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和十年十月十三日印刷納本
昭和十年十月十五日發行

幼兒の教育　第三十五卷　第十號

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

編輯兼發行者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　倉橋惣三

印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　柴山則常

印刷所　合資會社　杏林舍

東京市小石川區大塚町三十五
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

發行所　日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

不許複製

禁轉載

注文定規

一、本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割增）

一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。

一、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄と明記せられたし。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

好評

七版

東京女高師教授
附屬幼稚園主事
倉橋惣三先生著

幼稚園保育法眞諦

四六判美本
價二圓五十錢
送料十六錢

一、現代に於ける完備せる保育法原論。
二、保育法の眞諦卽ちコツを悉く披瀝さる。
三、倉橋先生最近の力作。幼稚園必須書。

好評

東京女高師教授
倉橋惣三先生
新庄よしこ先生共著

日本幼稚園史

▲本書は、歷代皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の大記念塔▲日本幼稚園史として比類なき名著

菊判
四八〇頁
定價三・八〇
送料二〇

大好評

東京女子高等師範學校教授
前附屬幼稚園主事
現附屬小學校主事
堀七藏先生著

幼稚園保育の諸問題

四六判美本
價二圓八十錢
送料十六錢

▲幼稚園保育上の重要問題の實際的解決指針書

▲小學校との連絡問題に關する詳述はこの本の特色である

▲明晰なる理論を以て保育實際に付き方面の進むべきのに適を明示し最新の權威書書

奈良女子高等師範教授
同附屬幼稚園主事
森川正雄先生二大名著

增訂十版
幼稚園の理論及び實際
菊三百頁
定價三圓
送十八錢

五版
幼稚園の經營
四六判三八〇頁
定價二圓八十錢
送料十八錢

發兌 東洋圖書株式合資會社 東京 大阪

東京市神田區・神保町一番地・振替東京一〇三七番
大阪市南區・内安堂寺町一丁目二番地・振替大阪三九五五六番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
（毎月一回十五日發行）
昭和十年十月十三日印刷納本
昭和十年十月十五日

爽かなこの秋に
お子達の爲の屋外保育用品

弊社工場の特に入念に吟味製作せる
堅牢にして體裁よき安全の品々——

携帶黑板——幼兒自身が適宜の所へ持ち運び自由な折疊式黑板。　一組　金十五圓

折疊椅子——鋼鐵骨に丈夫な布を張つた折たゝみ自在の椅子。　一脚　金一圓二十錢

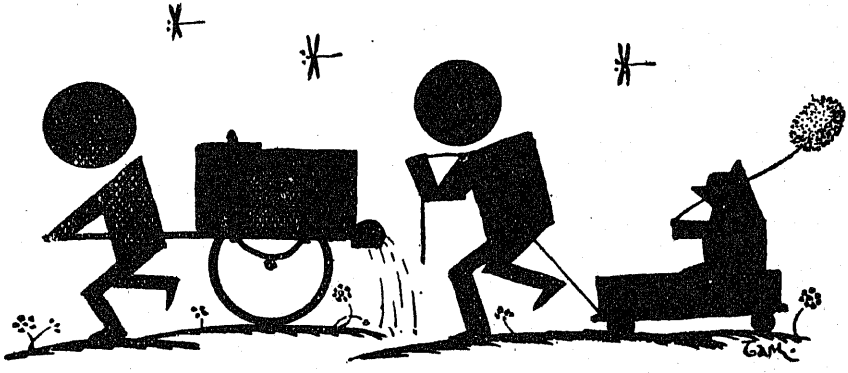
折疊車子——堅牢な蝶番で折疊み自由、長さ四尺巾二尺高さ一尺五寸、二脚一組　一組　金七圓

トロツコ——車、心棒とも鐵製堅牢、子供に應用の途廣し。　一臺　金三圓

お伽車——折疊式構造の輕便な車、面白い動物の形をした愉快な車、お辨當や保育の品々を積んで園外に子供が自由に引き出すもの、應用多端。　一臺　金二十五圓

押車——幼兒が自由に押し歩く運搬車、これも樣樣に應用されます。　一臺　金三圓五十錢

其他幼稚園、幼兒用各種運動具、最新の製作に係る新案新樣式の運動具多種。



株式會社　フレーベル館

本店　東京・神田・今川小路・電話九段(三三)三八二七番
出張所　大阪・東區・備後町五・電話本町一九三八番

價三十五錢